

第6回 プラチナ大賞

報告書



# プラチナ大賞とは

## 「プラチナ大賞」の目的

未来のあるべき社会像として描く「プラチナ社会」は、成熟社会における成長の一つのモデルであり、日本が先進国として直面する課題の解決と、新たな可能性の創造によってもたらされる、豊かで快適でプラチナのように威厳を持って光り輝く社会です。

「プラチナ大賞」は、この「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的として2013年に第1回が開催され、今回で第6回目を迎えました。

イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、または体現しようとしている全国の自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、これらをプラチナ社会のモデルとして広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」の実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図るものです。

## 「プラチナ社会」とは

人口減少、急激に高齢化する社会、地球温暖化等、課題先進国である我々日本がおかれている現状において、老朽化していく都市インフラ、活力を失う地方の市街地、荒廃する農地、財政を圧迫する社会保障全般、人材養成の困難とその海外流出、新たな負担となった地球環境への対応など、さまざまな課題が生じています。

これらの課題は物質的な豊かさを達成した先進国ならではのものであり、これらをわが国が「課題先進国」としていち早く乗り越えることは、一方で新たな社会システムの構築、新しいビジネスの創造に繋がる、大いなる可能性に満ちた挑戦であるとも言えます。私たちは「課題解決先進国」として日本が目指すべき社会を「プラチナ社会」と定義し、その必要条件は以下の通りであると考えます。

- ・ **エコロジー**で（人間にとって快適な自然環境の再構築、環境との調和・共存）
- ・ **資源の心配がなく**（エネルギー効率の向上、自然エネルギー活用、物質循環システムの構築）
- ・ **老若男女が全員参加**し（生涯を通じた成長、社会参加の機会創造、健康で安心して加齢できる社会）
- ・ **心もモノも豊かで**（文化・芸術に彩られた暮らし、飽和・停滞を打破する「限界を超えた成長」）
- ・ **雇用がある社会**（イノベーションによる新産業の創出）

「プラチナ社会」の姿は、このような条件を備えたうえで地域ごとの個性的様相を帯びるものであり、その実現のためには各地域独自の自立的かつチャレンジングな取り組みが重要となります。

### 第6回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

日時 2018年10月25日(木) 13:15～17:35

会場 イイノホール&カンファレンスセンター

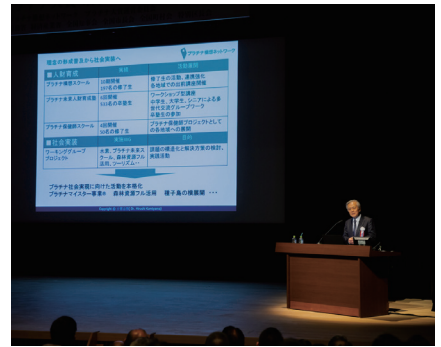
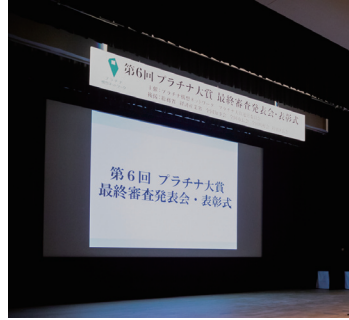
主催 プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）

プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）

後援 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会

# 第6回 プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 フォトレポート

会場 イノホール&カンファレンスセンター



## 開会挨拶



プラチナ構想ネットワーク  
会長 小宮山 宏

## 運営委員長挨拶



増田 寛也 運営委員長

## 審査委員長挨拶



吉川 弘之 審査委員長

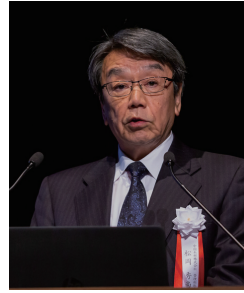
最終審査発表会（発表順）



徳島県 美波町  
美波町長  
影治 信良 氏



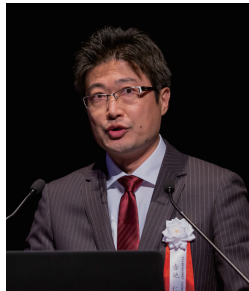
香川県  
香川県理事 香川県広域  
水道企業団 事務局長  
和田 光弘 氏



中国木材株式会社  
管理部長  
松岡 秀尚 氏



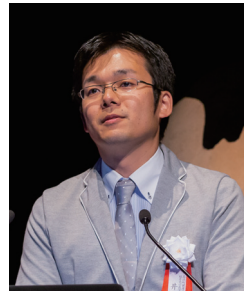
養父市  
特定非営利活動法人養父市マイカー運送ネットワーク  
理事長 小柴 勝彦 氏 (写真左)  
養父市 企画総務部 国家戦略特区・地方創生課長  
谷 徳充 氏 (写真右)



岐阜市  
教育委員会事務局 学校指  
導課 教育研究所 副主査  
赤地 仁志 氏



高浜町 福井大学 たかはま地域医療サポーターの会  
高浜町長 野瀬 豊 氏 (写真左)  
高浜町健康のまちづくりプロデューサー 福井大学医学部地域プライマリケア講座教授 井階 友貴 氏 (写真中)  
たかはま地域医療サポーターの会 事務局 小幡 真宏 氏 (写真右)



一般社団法人里海イニシアティブ  
吉澤 保幸氏 (プラチナ構想ネットワーク特別会員)  
一般社団法人里海イニシアティブ 理事 高橋 俊和氏 (写真左)  
株式会社鈴音 取締役 横濱元町 霧笛楼 総料理長  
今平 茂 氏 (写真右)



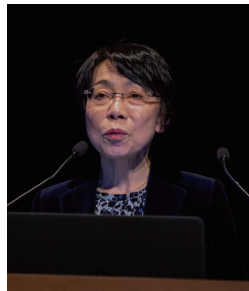
株式会社リクルート  
HR研究機構  
イクシオン事務局 事務局長  
二葉 美智子 氏



株式会社三井住友銀行  
株式会社SMBC信託銀行  
一般社団法人社会的投資推進財団  
株式会社三井住友銀行  
成長産業クラスター 部長  
西村 克俊 氏



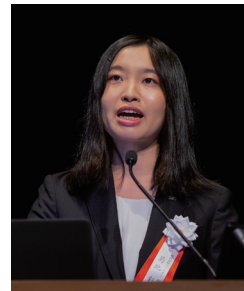
荒川区  
区長  
西川 太一郎 氏



埼玉県  
教育委員会 教育長  
小松 弥生 氏



会津地域森林資源活用事業推進協議会  
会津森林活用機構株式会社 住友林業株式会社  
株式会社アルファフォーラム  
会津森林活用機構株式会社 取締役 渡部 一也 氏 (写真左)  
住友林業株式会社 資源環境本部山林部 グループマネージャー  
岡田 広行 氏 (写真右)



株式会社シェルター  
総務部 秘書広報室  
菊地 彩春 氏



東日本旅客鉄道株式会社  
秋田支社  
総務部長  
酒井 宏彰 氏

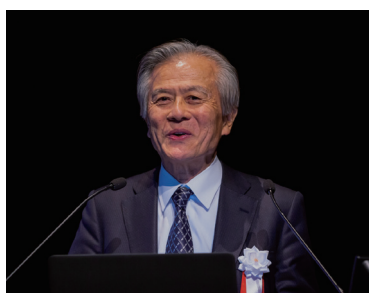
## 「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告



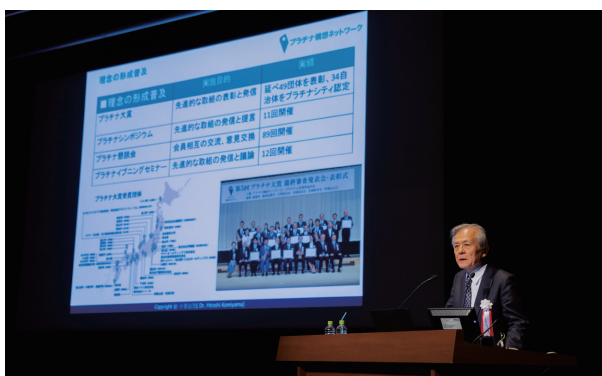
第4回大賞・総務大臣賞 雲南市  
雲南市政策企画部長 佐藤 満 氏(写真左)  
特定非営利活動法人おっちラボ 若チャレ・コーディネーター 平井 佑佳 氏(写真右)



## プラチナ構想ネットワークの活動成果と今後の展望



プラチナ構想ネットワーク  
会長 小宮山 宏



## 最終審査会



## 来賓挨拶



総務大臣  
石田 真敏 氏



経済産業副大臣  
磯崎 仁彦 氏

## 表彰式



大賞・総務大臣賞  
養父市



大賞・経済産業大臣賞  
株式会社セルター



## 講評



吉川 弘之 審査委員長

## 閉会挨拶



岩沙 弘道 幹事長



## 第6回 プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

プラチナ  
構想ネットワーク

主催：プラチナ構想ネットワーク プラチナ大賞運営委員会

後援：総務省 経済産業省 全国知事会 全国市長会 全国町村会 特別区長会

---

## はじめに

「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決している自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、それらを「プラチナ社会」のモデルとして紹介することにより、更なる広がりにつなげることを目的に、2013年より毎年開催しております。

これまでに、「大賞・総務大臣賞」は島根県海士町（第1回）、ヤマトホールディングス株式会社（第2回）、石川県珠洲市（第3回）、島根県雲南市（第4回）、新潟県見附市（第5回）が受賞し、「大賞・経済産業大臣賞」を福岡県北九州市（第2回）、積水ハウス株式会社（第3回）、コマツ（第4回）、株式会社伊藤園（第5回）が受賞しております。

この上記9つの取り組みを含む計49の取り組みに対して、「大賞」「優秀賞」「審査委員特別賞」「プラチナ・イノベーション賞」および「総務大臣賞」「経済産業大臣賞」を授与してまいりました。

今回の「第6回プラチナ大賞」では、会員団体から53件の応募が寄せられ、第一次審査において選出された14の取り組みについて、2018年10月25日開催「第6回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式」において最終プレゼンテーションを行っていただきました。その後実施された厳正なる最終審査の結果、兵庫県養父市の『養父市の新たな挑戦！国家戦略特区を活用した新たな自家有償旅客等運送事業「やぶくる」』が「大賞・総務大臣賞」を、株式会社シェルターの『「木造都市づくり」への挑戦—都市に森をつくる—』が「大賞・経済産業大臣賞」を受賞し、他12の取り組みが各賞を受賞されました。

ご後援をいただいております総務省・経済産業省・全国知事会・全国市長会・全国町村会・特別区長会、その他多くの当会関係団体・ご関係者・当会会員団体の皆様にはご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

また、ご応募いただきました各団体の皆様方には、日頃の熱意とご努力にあらためて敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

「第6回プラチナ大賞」の開催内容を「最終審査発表会・表彰式」の内容を中心に報告書にまとめました。本書が皆様にとって「プラチナ社会」実現への更なるご理解の深化、あるいは今後の当会活動へのご参画や次回以降の「プラチナ大賞」へのご応募の契機となれば幸甚です。

今後とも、当会の活動に対する、ますますのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

プラチナ大賞運営委員会事務局  
(プラチナ構想ネットワーク事務局)

## 目次

はじめに .....	1
開会挨拶	
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 .....	3
運営委員長・審査委員長挨拶	
プラチナ大賞 運営委員長 増田 寛也 .....	3
プラチナ大賞 審査委員長 吉川 弘之 .....	4
来賓挨拶	
総務大臣 石田 真敏 氏 .....	4
経済産業副大臣 磯崎 仁彦 氏 .....	5
第6回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要	
実施体制 .....	6
プログラム概要 .....	7
最終審査発表会選出団体 .....	8
受賞団体 .....	9
プラチナシティ認定制度 .....	12
副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について .....	13
最終審査発表会選出団体のプレゼンテーション	
養父市…15 / 株式会社シェルター…16 / 徳島県、美波町…17 / 香川県…18 / 中国木材株式会社…19 / 岐阜市…20 / 高浜町、福井大学、たかはま地域医療サポーターの会…21 / 一般社団法人里海イニシアティブ、吉澤 保幸 氏…22 / 株式会社リクルート…23 / 株式会社三井住友銀行、株式会社 SMBC 信託銀行、一般社団法人社会的投資推進財団…24 / 荒川区…25 / 埼玉県…26 / 会津地域森林資源活用事業推進協議会、会津森林活用機構株式会社、 住友林業株式会社、株式会社アルファフォーラム…27 / 東日本旅客鉄道株式会社秋田支社…28	
「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告	
[第4回 大賞・総務大臣賞] 雲南市 雲南市政策企画部長 佐藤 満 氏 特定非営利活動法人おっちラボ 若チャレ・コーディネーター 平井 佑佳 氏 .....	29
プラチナ構想ネットワークの活動成果と今後の展望	
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 .....	30
審査委員長 講評	
プラチナ大賞 審査委員長 吉川 弘之 .....	31
閉会挨拶	
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 岩沙 弘道 .....	32
【資料編】	
運営委員会組織と事務局運営体制 .....	34
第6回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 参加者数 .....	34
応募団体の全体概要 .....	35
主なメディアの掲載一覧 .....	36



## 開会挨拶

プラチナ構想ネットワーク  
会長

小宮山 宏



本日はお集まりいただきありがとうございます。プラチナ大賞は今年で6回目の開催を迎えました。皆様のご協力に、心より御礼申し上げます。

本年より、新たに事業構想大学院大学 学長の田中里沙様、株式会社アイスタイル 取締役CQOの山田メユミ様のお二人に審査委員にご就任いただき、審査委員会もますます充実した体制となりました。

今回は、53件の取り組みをご応募いただき

ました。自治体からの応募に加えて、企業からも多数のご応募をいただき、非常に健全だと感じております。

吉川審査委員長をはじめ審査委員の先生方には、一次審査にて14件の取り組みを精選いただきました。件数も多く、極めて多様な取り組みを審査されるにあたっては、大変なご苦勞があったかと思えます。本日の最終審査では、最後のご苦勞をおかけいたします。

審査の基準は、プラチナ社会を体現している取り組みはどれかでございますが、審査委員の先生方の見識と最後は感性で決定いただければと考えております。

お越しいただいた皆様もぜひ、これがいわば日本創生の最前線の取り組みだということでお楽しみいただければと思います。私も楽しみにしております。どうも本日はありがとうございました。

## 運営委員長挨拶

プラチナ大賞  
運営委員長

増田 寛也



第6回目を迎える今年は、昨年より10件多い53件の応募があり、一次審査を経て、14件の取り組みが選出されました。今年は、特に企業からの応募が増えたため、バランスよく選出されたと思います。取り組み内容が充実してきている中で、悩みながらの審査ですが、本当にうれしい悩みになってきたと感じています。

プラチナ社会の理念を社会実装していく一つの仕掛けとして、プラチナ大賞を開催してきました。今回からは、すでに実行に移されている

取り組みのみならず、企画・構想段階、今後の展開に期待するような取り組みも応募の対象として、その後の社会実装に繋げていこうと考えております。

いよいよ社会実装に向けて現実段階に、地に足着いたものになってきたなと思っておりますが、本日お越しの皆様には、選出された14件をしっかりとご覧いただいた上で、その考え方、プラチナ社会の理念を広め、実行に移していく、そういう応援をしていただきたいと思っております。

昨日、国会が開かれ総理の所信表明が行われました。所信表明の中に、第4回で大賞・総務大臣賞を受賞した雲南省の取り組みがまさに取り上げられておりました。本日、取り組みのその後について発表いただけるようです。ぜひどうぞ、今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

## 審査委員長挨拶

プラチナ大賞  
審査委員長

吉川 弘之



今年は14件が選出されました。民間からの課題が多く入ってきた、あるいはこれからというまだ芽のようなものが期待を込めて選ばれたということで、少しずつ変化してきています。

小宮山会長によれば、最後は審査委員の感性によって選べということですが、感性は人によって異なりますから、やはり論理も必要となります。しかし、論理というのが非常に難しく

て、世の中に様々な賞がありますが、賞を選ぶというのは、悩みの多いものです。特に、プラチナ大賞は、あらゆる分野にわたり、それぞれが地域の特性を持ち、良し悪しを判断することが難しい。しかし、そこには地域を愛する人々の、自分で良くしようという努力の重さがあり、これは全てに共通のものです。これを測るのは難しいことですが、そのような様々な視点も持ち、慎重に審査したいと思います。

本日、14件から大賞を選ぶこととなります。厳正に選ばせていただきますので、発表の方はぜひ、張り切って発表いただきたいと思います。会場の皆様も一人一人が審査委員になったつもりで、じっくりと感性と論理をもって、聞いていただくように、心からお願いいたします。よろしくお願いいたします。

## 来賓挨拶

総務大臣

石田 真敏 氏



小宮山会長をはじめ、関係各位のご尽力により、プラチナ大賞が第6回を迎え、盛大に表彰式が開催されることを心からお祝い申し上げます。

今、日本、そして世界は、AI、IoT、ビッグデータなどが引き起こしつつある第4次産業革命によって、「Society 5.0」という、狩猟、農耕、工業、情報に続く第5の社会へのパラダイムシフトが起きている激動期にあります。このような中、我が国が世界に先駆けて深刻化する人口減少や少子・高齢化といった課題に対応し、国際的な競争力を維持・強化して、地方の活性化と持続的な経済成長を達成していくためには、社会革新が不可欠です。

プラチナ大賞は、イノベーションによる新サービスの創出により、地域課題を解決する取

組を表彰するとともに、優秀な取組を全国に発信することを目的に創設されたと伺っております。我が国が今後、「Society 5.0」を実現していくに当たっては、各地域での成功モデルを提示し、イノベーションの波を全国に波及させていくことが重要であり、その意味でも、プラチナ大賞は大変意義深いものと考えています。これから発表される大賞を受賞される取組、惜しくも大賞を逃す取組もあるかと思いますが、この場にいらっしゃる全ての皆さまの取組が今後さらに発展し、また、全国へ広まっていくことを強く期待しております。

総務省におきましても、引き続き高齢者をはじめとする全ての人が活躍できる社会を目指して、関連の施策を実行してまいります。こうした施策の実行には、自治体、事業者等の皆さまとの連携が不可欠であると考えており、今後とも我が国の明るい未来を目指して、ともに邁進してまいりたいと思います。

結びにあたり、「プラチナ構想ネットワーク」の一層のご発展と、本日までご参加の皆さまのますますのご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

経済産業副大臣  
磯崎 仁彦 氏



本日は第6回プラチナ大賞の最終審査発表会・表彰式が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。また、小宮山会長、増田運営委員長、吉川審査委員長をはじめ、本会の開催にご尽力された関係者の皆さまに心から敬意を表したいと思います。

プラチナ大賞は、地方が直面する人口減少や少子高齢化などの課題を解決するための優れた取り組みを表彰するものです。地域から生まれる未来に向けた取り組みを後押しすることは、地域経済活性化のために重要です。経済産業省としてもプラチナ大賞が地域経済活性化に繋がる取り組みを後押しするものとして、高く評価をしているところです。

地域経済は少子高齢化や、人手不足という大きな課題を抱えております。こうした中、第4次産業革命による産業構造の大きな変化に対応して、地域において良質な雇用を維持、創出し

ていくことが課題となっております。地域経済の活性化のためには、働き方改革や生産性の向上に加え、将来の成長が期待される新しい分野へのチャレンジを後押しすることが必要です。こうした取り組みを、経済産業省としては、地域未来投資と名付けて、積極的に支援をしているところです。

本日発表いただきました提案は産業振興、まちづくり、教育、女性支援、女性活躍、IoTなど、まさに経済産業省が目指す、地域未来投資と言える素晴らしい内容であり、ぜひともその内容を実現していただくことを期待いたします。

また、この中でも特に、地方自治体とのパートナーシップにより、社会問題を解決する革新的なビジネスモデルを提示し、商工業の発展や、雇用創出を実現した先進的な取り組みを、経済産業大臣賞として表彰させていただきます。この表彰を通じて、各団体の取り組みが地域モデルとなり、多くの方が地域の未来を支える活動に取り組んでいただくきっかけとなることを大いに期待しております。

最後になりますが、本日お集まりの皆さまのますますのご発展とご健勝を心から祈念申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

## 第6回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要

### 実施体制

- 【主催】** プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）  
プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）
- 【後援】** 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会
- 【事務局】** プラチナ大賞運営委員会事務局（プラチナ構想ネットワーク事務局）

#### 運営委員会

委員長	増田 寛也	東京大学公共政策大学院 客員教授
副委員長	秋山 弘子	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授
委員	平石 和昭	プラチナ構想ネットワーク 事務局長

#### 審査委員会

委員長	吉川 弘之	元東京大学 総長、東京大学 名誉教授、産業技術総合研究所 最高顧問、日本学術振興会 学術最高顧問
副委員長	秋山 弘子	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授
委員	石戸奈々子	NPO 法人 CANVAS 理事長、慶応義塾大学 教授
委員	岸本 一朗	株式会社フジテレビジョン 専務取締役
委員	西條 都夫	株式会社日本経済新聞社 編集委員兼論説委員
委員	田中 里沙	事業構想大学院大学 学長
委員	月尾 嘉男	東京大学 名誉教授
委員	増田 寛也	東京大学公共政策大学院 客員教授
委員	山田メユミ	株式会社アイスタイル 取締役 CQO
委員	吉川 洋	立正大学 経済学部 教授、東京大学 名誉教授

## プログラム概要

- 13:15 **開会挨拶**  
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
- 13:20 **運営委員長・審査委員長挨拶**  
プラチナ大賞 運営委員長 増田 寛也  
プラチナ大賞 審査委員長 吉川 弘之
- 13:30 **最終審査発表会（プレゼンテーション）**  
徳島県、美波町／香川県／中国木材株式会社／養父市／岐阜市／高浜町、福井大学、たかはま地域医療サポーターの会／一般社団法人里海イニシアティブ、吉澤 保幸 氏／株式会社リクルート／株式会社三井住友銀行、株式会社 SMBC 信託銀行、一般社団法人社会的投資推進財団／荒川区／埼玉県／会津地域森林資源活用事業推進協議会、会津森林活用機構株式会社、住友林業株式会社、株式会社アルファフォーラム／株式会社シェルター／東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社（発表順）
- 15:45 **「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告** [同時間、並行して最終審査会を開催]  
[第4回 大賞・総務大臣賞] 雲南市  
雲南市政策企画部長 佐藤 満 氏  
特定非営利活動法人おっちラボ 若チャレ・コーディネーター 平井 佑佳 氏
- 16:05 **プラチナ構想ネットワークの活動成果と今後の展望**  
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
- 16:40 **来賓ご挨拶**  
総務大臣 石田 真敏 氏  
経済産業副大臣 磯崎 仁彦 氏
- 16:50 **審査結果発表／表彰式**
- 17:25 **審査講評**  
プラチナ大賞審査委員長 吉川 弘之
- 17:30 **閉会挨拶**  
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 岩沙 弘道

## 最終審査発表会選出団体（発表順）

団体名	発表者	タイトル
徳島県 美波町	美波町 町長 影治 信良 氏	美波町における「ICT等を活用した地域課題解決による好循環なまちづくり」
香川県	香川県理事 香川県広域水道企業団 事務局長 和田 光弘 氏	全国初！ 県域を対象とした水道広域化の取り組み
中国木材株式会社	管理部 部長 松岡 秀尚 氏	低炭素・循環型社会実現のために林業再生を目指して 一日向モデル（大型製材・加工と大型木質バイオマス発電 の取り組み）
養父市 （兵庫県）	特定非営利活動法人養父市マイカー運送 ネットワーク 理事長 小柴 勝彦 氏 養父市 企画総務部 国家戦略特区・地方 創生課長 谷 徳充 氏	養父市の新たな挑戦！ 国家戦略特区を活用した 新たな自家用有償旅客等運送事業「やぶくる」
岐阜市 （岐阜県）	教育委員会事務局 学校指導課 教育研究所 副主査 赤地 仁志 氏	デジタルネイティブ世代へのプログラミング教育 ～日本の周回遅れを取り戻す～
高浜町（福井県） 福井大学 たかはま地域医療 サポーターの会	高浜町 町長 野瀬 豊 氏 高浜町 健康のまちづくりプロデューサー 福井大学医学部 地域プライマリケア講座 教授 井階 友貴 氏 たかはま地域医療サポーターの会 事務局 小幡 真宏 氏	“医住”から“移住”へ ～地域総出で支える安心医療のまちづくり・10年の軌跡～
一般社団法人 里海イニシアティブ 吉澤 保幸 氏 （プラチナ構想ネットワーク特別会員）	一般社団法人里海イニシアティブ 理事 高橋 俊和 氏 株式会社鈴音 取締役 横濱元町 霧笛楼 総料理長 今平 茂 氏	里海よろこんぶプロジェクト
株式会社リクルート	HR 研究機構 イクシオン事務局 事務局長 二葉 美智子 氏	（株）リクルートと北九州市の連携協定による 女性就業支援 ～一人ひとりが自分らしく働ける社会の実現に向けて～
株式会社三井住友銀行 株式会社 SMBC 信託銀行 一般社団法人社会的投資 推進財団	株式会社三井住友銀行 成長産業クラスター 部長 西村 克俊 氏	ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）を活用した 社会的課題解決 ～糖尿病性腎症重症化予防事業に対する取り組み～
荒川区 （東京都）	荒川区 区長 西川 太一郎 氏	「読書を愛するまち・あらかわ」の展開
埼玉県	教育委員会 教育長 小松 弥生 氏	子供たちの「伸び」を見つめ、「やる気」を引き出す 埼玉県学力・学習状況調査
会津地域森林資源活用事業推進協議会 会津森林活用機構株式会社 住友林業株式会社 株式会社アルファフォーラム	会津森林活用機構株式会社 取締役 渡部 一也 氏 住友林業株式会社 資源環境本部 山林部 グループマネージャー 岡田 広行 氏	13 市町村広域連携による 森林資源フル活用事業
株式会社シェルター	総務部 秘書広報室 菊地 彩春 氏	「木造都市づくり」への挑戦 ～都市に森をつくる～
東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社	秋田支社 総務部長 酒井 宏彰 氏	ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト

※各団体のプレゼンテーション資料やプレゼンテーション映像は、以下のサイトより閲覧することができます。  
<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou2018/ceremony.html>

## 受賞団体

2018年10月25日13時30分から最終審査会が開催され、最終審査発表会に進出した14団体のプレゼンテーションに基づいて、各賞受賞団体が決定しました。審査委員会の総意により、大賞は2つの取り組みに授与することとし、それぞれ表彰を行いました。

### 大賞・総務大臣賞

団体名 養父市（兵庫県）  
 取り組み名 養父市の新たな挑戦！  
 国家戦略特区を活用した新たな自家用  
 有償旅客等運送事業「やぶくる」



### 大賞・経済産業大臣賞

団体名 株式会社シェルター  
 取り組み名 「木造都市づくり」への挑戦  
 —都市に森をつくる—



### ライフデザイン賞

団体名 徳島県 美波町  
 取り組み名 美波町における「ICT等を活用した地域課題解決  
 による好循環なまちづくり」



### 新しい時代のインフラ賞

団体名 香川県  
 取り組み名 全国初！県域を対象とした水道広域化の取り組み



### 事業革新賞

団体名 中国木材株式会社  
 取り組み名 低炭素・循環型社会実現のために林業再生を目指して  
 —日向モデル（大型製材・加工と大型木質バイオマス発電の  
 取り組み）—



---

### グッドスタート賞

団体名 岐阜市（岐阜県）  
取り組み名 デジタルネイティブ世代へのプログラミング教育  
～日本の周回遅れを取り戻す～



---

### 全員参加の地域づくり賞

団体名 高浜町（福井県）  
福井大学  
たかはま地域医療サポーターの会  
取り組み名 “医住” から “移住” へ  
～地域総出で支える安心医療のまちづくり・10年の軌跡～



---

### きらり構想賞

団体名 一般社団法人里海イニシアティブ  
吉澤 保幸 氏（プラチナ構想ネットワーク特別会員）  
取り組み名 里海よろこんぶプロジェクト



---

### グッドスタート賞

団体名 株式会社リクルート  
取り組み名 (株)リクルートと北九州市の連携協定による  
女性就業支援  
～一人ひとりが自分らしく働ける社会の実現に向けて～



---

### パートナーシップ賞

団体名 株式会社三井住友銀行  
株式会社 SMBC 信託銀行  
一般社団法人社会的投資推進財団  
取り組み名 ソーシャル・インパクト・ボンド (SIB) を  
活用した社会的課題解決  
～糖尿病性腎症重症化予防事業に対する取り組み～





次世代育成賞

団体名 荒川区（東京都）  
取り組み名 「読書を愛するまち・あらかわ」の展開



次世代育成賞

団体名 埼玉県  
取り組み名 子供たちの「伸び」を見つめ、「やる気」を引き出す  
埼玉県学力・学習状況調査



地域パートナーシップ賞

団体名 会津地域森林資源活用事業推進協議会  
会津森林活用機構株式会社  
住友林業株式会社  
株式会社アルファフォーラム  
取り組み名 13市町村広域連携による森林資源フル活用事業



地域パートナーシップ賞

団体名 東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社  
取り組み名 ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト



## プラチナシティ認定制度

イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより、地域の課題をすでに解決し「プラチナ社会」に向かいつつある、あるいは「プラチナ社会」実現に向けた明確なビジョンや具体的なアクションによる素晴らしい取り組みを始めている自治体が「プラチナシティ」です。

### プラチナシティ認定自治体

「プラチナ大賞」において各賞（プラチナ大賞、優秀賞、審査委員特別賞、プラチナ・イノベーション賞、その他今後新設される賞）を受賞した自治体です。



プラチナシティ  
認定バッジ



## 副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について

各賞受賞団体には、表彰状のほか副賞として津軽金山焼の特製のトロフィーを贈呈しました。



大賞



部門賞

津軽金山焼は、プラチナ構想ネットワークの特別会員である松宮亮二氏が1985年に青森県五所川原市に立ち上げた窯で、高温で焼きあげる「焼き締め」の手法による、深みのある独特の風合いで知られています。

松宮氏は地域に根差した陶芸産業として金山焼を一から育ててきたと同時に、国内そして海外からも多くの陶芸家の研修生を招き、世代や地域を超えた陶工の育成と、人材・カルチャーの交流を通じた文化芸術面での地域貢献を行っているほか、最近ではやきものを通じた被災地の復興支援活動にも積極的に取り組んでいます。こうした津軽金山焼の取り組みがプラチナ社会の目指す理念に相通じることから、特別に副賞を制作いただきました。

## 最終審査発表会選出団体の プレゼンテーション



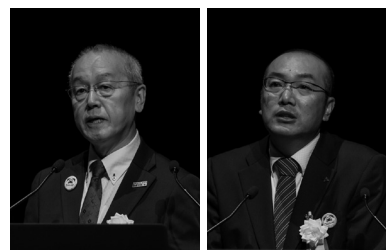
※各団体のプレゼンテーション資料やプレゼンテーション映像は、以下のサイトより  
閲覧することができます。

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou2018/ceremony.html>

## 養父市の新たな挑戦！ 国家戦略特区を活用した 新たな自家用有償旅客等運送事業「やぶくる」

### 養父市（兵庫県）

発表者：特定非営利活動法人養父市マイカー運送ネットワーク 理事長 小柴 勝彦 氏  
養父市 企画総務部 国家戦略特区・地方創生課長 谷 徳充 氏



#### 取り組み概要

「やぶくる」とは、地域住民が登録ドライバーとなり、自家用車で市民や観光客の足となる、国家戦略特区を活用した新たな自家用有償旅客等運送事業です。

養父市には、鉄道、バス、タクシーなど複数の公共交通機関がありますが、広い地域に集落が点在する地理的条件から、市内全域で細かなニーズに十分対応することは難しいのが現状です。特に利用者を個別輸送するタクシーは、八鹿地域、養父地域にある拠点から、大屋地域、関宮地域に迎車の必要があり、短距離輸送では採算が合わず、事業が成り立ちません。この結果、大屋地域、関宮地域では、タクシーによる短距離輸送が実質的に困難となっています。

この課題を解決するために生まれたのが「やぶくる」です。実施主体はNPO法人養父市マイカー運送ネットワーク。市民及び観光客を対象とした持続可能で安全な個別輸送（短距離輸送）の仕組みを構築するため、タクシー事業者やバス事業者、地域自治組織、観光関連団体、行政等が官民一体となって取り組みました。地域の特性に応じ、最適で利用しやすい移動手段を創出し、高齢者等市民の生活支援とあわせ、観光振興にも繋げることを目的に取り組んでいます。

また、やぶくるの登録ドライバーにはアクティブシニア、子育て中のママなど幅広い世代が参加しています。地域社会へ参加する機会を創造しつつ、所得の向上を図るという隙間時間を活用した新しい地域貢献のカチです。

#### 参考図表

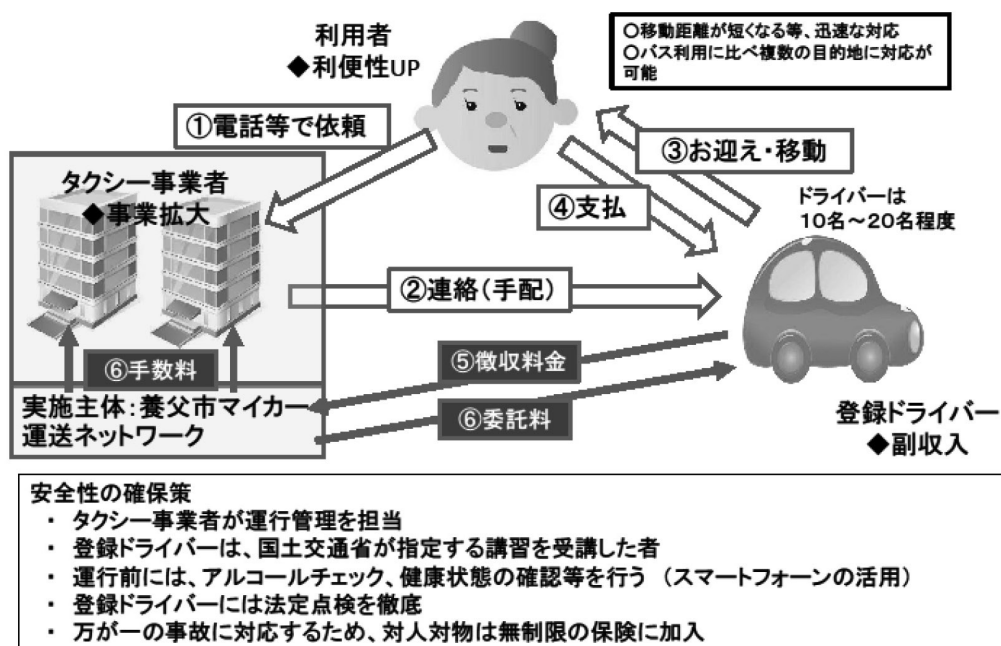


図 事業スキーム

## 「木造都市づくり」への挑戦 — 都市に森をつくる —



### 株式会社シェルター

発表者：総務部 秘書広報室 菊地 彩春 氏

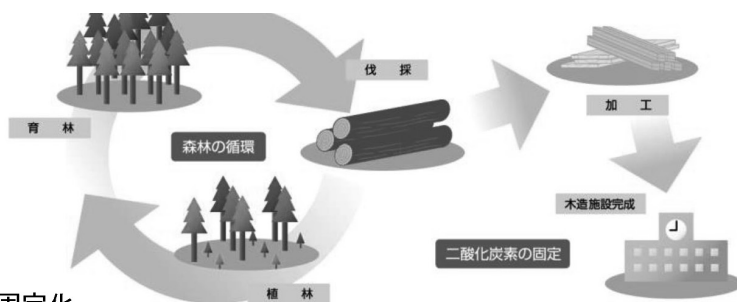
#### 取り組み概要

日本は、環境問題や急速に進む人口減少・高齢化、首都圏への一極集中などの「課題先進国」であるが、日本の様々な課題を同時に解決してプラチナ社会を築くには、「木造都市づくり」への取り組みが有効である。CO<sub>2</sub>の最大の吸収源であり、国土の7割を占める森林を積極的に利用して木造建築をつくり、街中にCO<sub>2</sub>を大量に固定化する。一方、伐採した後は植林し、森のCO<sub>2</sub>吸収力を高める。

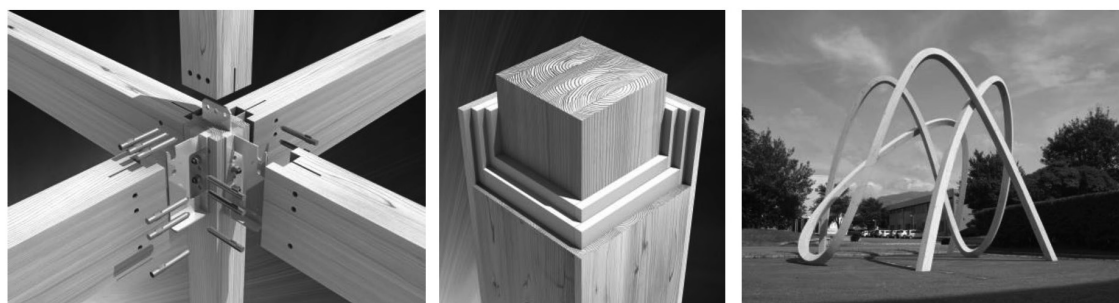
当社は、木造建築一筋に45年間、技術開発に取り組んできた。当社が開発した、①大規模・高層の建物を構築する技術「KES 構法」、②木肌を現した1~3時間の木質耐火部材「COOL WOOD」、③曲線・ひねり・三次元加工部材「FREE WOOD」の独自技術・製品が基盤となり、それらを相乗的に組み合わせて木造都市を実現する。

以上の技術・製品によって、大規模・高層・三次元の木造建築が建てられ、木造都市づくりが始まっている。街を再生すると共に、膨大な木材の需要が林業及び木材関連産業を引っ張り、地方の雇用を創出する。木造都市づくりは「都市と地方の双方」を元気にする構図である。都市を、成熟社会における人と環境にやさしい街へ再生させると同時に、地域産木材の需要拡大や関連産業を活性化して、地方の雇用拡大・活性化を図る。都市と地方の同時的創生を図り、「課題先進国」から「課題解決先進国」のプラチナ社会を目指す。※「木造都市」、「都市に森をつくる」、「KES」、「COOL WOOD」、「FREE WOOD」はシェルターの登録商標です。

#### 参考図表



森林の循環とCO<sub>2</sub>固定化



左から「KES 構法」、「COOL WOOD」、「FREE WOOD」

ライフデザイン賞

美波町における「ICT等を活用した地域課題解決による好循環なまちづくり」



徳島県 美波町

発表者：美波町 町長 影治 信良 氏

取り組み概要

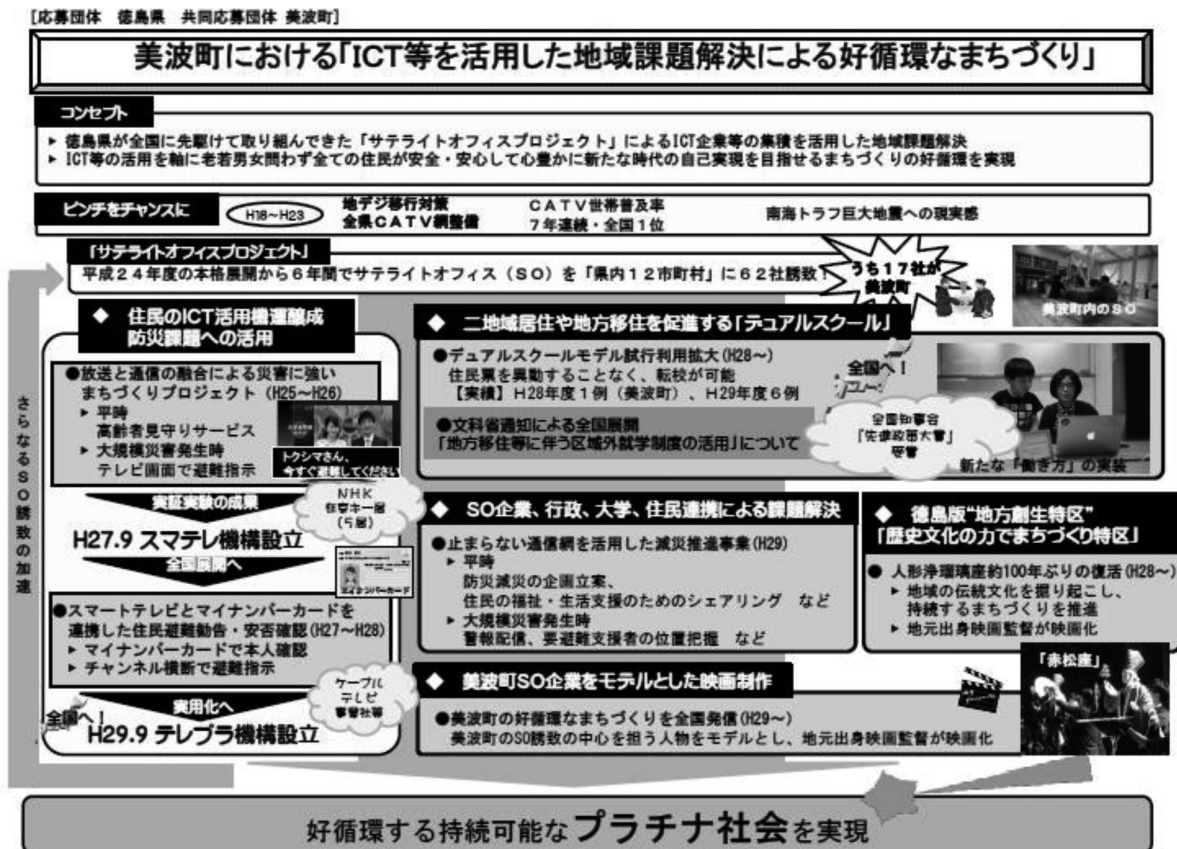
1 コンセプト

徳島県が全国に先駆けて取り組んできた「サテライトオフィスプロジェクト」によるICT等企業の集積を活用した地域課題解決、ICT等の活用を軸に老若男女問わず全ての住民が安全・安心して心豊かに新たな時代の自己実現を目指せるまちづくりの好循環を実現

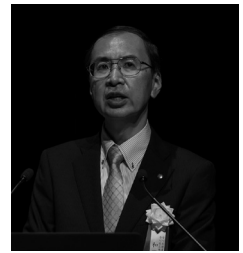
2 内容

「限界集落」と呼ばれる過疎地域にまで整備された「全国屈指のブロードバンド環境」を最大限に活かした「サテライトオフィスプロジェクト」によるICT企業等の集積により、住民のICT活用機運醸成、地域課題である防災課題への活用や二地域居住や地方移住を促進する「デュアルスクール」が全国展開へと繋がっている。また、サテライトオフィス企業、行政、大学、住民連携による課題解決の推進や全国唯一の制度である徳島版「地方創生特区」を活用し、地域の伝統文化が掘り起こされ、持続するまちづくりが推進されている。さらには、こうした好循環なまちづくりが注目を浴び、地元出身映画監督による美波町サテライトオフィス企業をモデルとした映画制作が行われている。

参考図表



## 全国初！ 県域を対象とした水道広域化の取り組み



### 香川県

発表者：香川県理事 香川県広域水道企業団 事務局長 和田 光弘 氏

#### 取り組み概要

平成 20 年度以降、知事を先頭に県が調整の前面に立ち、約 10 年間にわたる県内市町等との協議を経て、岡山県から受水している直島町を除き、県内 16 市町と県とで構成する「香川県広域水道企業団」を設立し、各自治体が担ってきた水道事業を 2018 年 4 月に一元化。県域を対象としたものとしては、全国に先駆けて「県内一水道」を実現した。

#### 参考図表

### 香川県における水道広域化

#### 県域を対象に 広域化して対応

#### 水道事業者が 抱える課題

##### (全国共通の課題)

- ・人口減少による給水収益の減少
- ・施設の老朽化に伴う大量更新
- ・大規模地震の発生に備えた早急な耐震化
- ・職員の大量退職に伴う技術継承の困難化

##### (香川県特有の課題)

- ・渇水への対応

- ・出先機関業務の集約、浄水場の統廃合、人員規模の適正化など、スケールメリットを生かした効率化等
- ・アセットマネジメントに基づく計画的な老朽施設の更新
- ・施設の耐震化、専門技術職員の育成・確保、大規模訓練、マニュアル整備など、危機管理の強化
- ・水源管理の一元化や広域的な送水管整備等を通じた、従来の市町域を超えた円滑な水融通による渇水対策
- ・浄水場の運転管理や窓口業務、水質検査などにおける民間企業との連携
- ・効率的経営や計画的な施設更新による水道料金の抑制や将来的な料金統一（2028 年 4 月）など、県民負担の抑制と地域間格差の是正

#### 2018 年 4 月【全国初】県域を対象とした広域化

(直島町を除く 16 市町と県で「香川県広域水道企業団」を設立)





## 事業革新賞

低炭素・循環型社会実現のために林業再生を目指して  
—日向モデル (大型製材・加工と大型木質バイオマス発電の取り組み)—

## 中国木材株式会社

発表者：管理部 部長 松岡 秀尚 氏

## 取り組み概要

低炭素・循環型社会の実現に向けて、大型製材・加工工場と大型木質バイオマス発電を併設することにより、充分に供給力のある再生可能な森林資源を無駄なく利用し、我が国の林業再生に貢献する。

当該事業は、国や県、市、森林組合等の協力を得て、宮崎県日向市に未利用材製材工場(小径木工場)を含む大型製材(中・大径木工場)・加工工場と18,000kWの木質バイオマス発電所を併設し、住宅構造材の生産・販売と発電を行っている(年間消費原木量は、年間50万m<sup>3</sup>)。

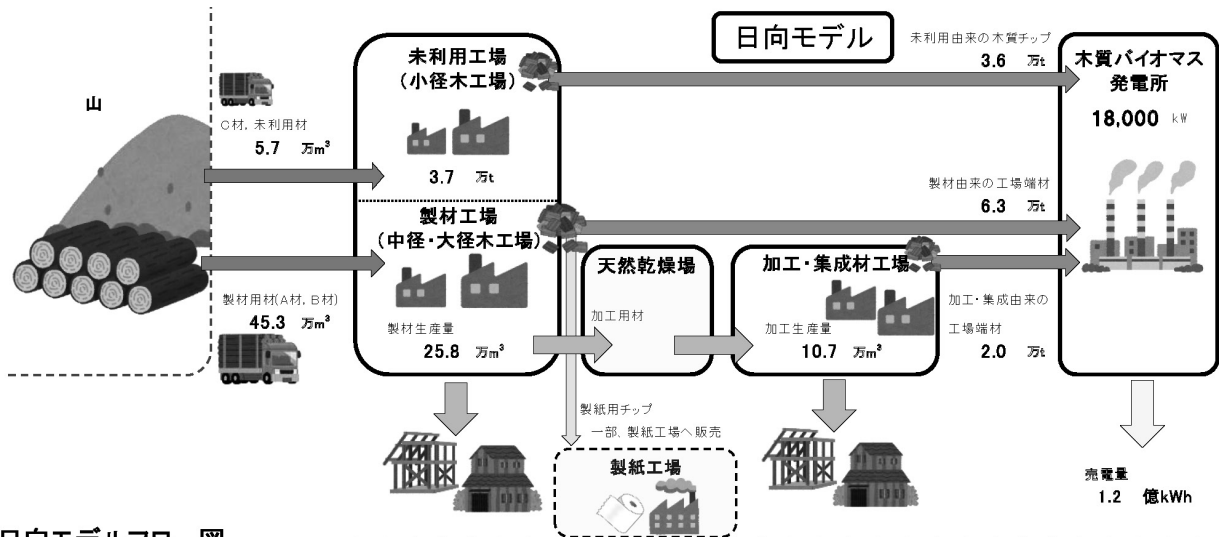
## 特色(創造性・革新性)

- ①山から切り出される全ての材(A材からC材、未利用材まで)を受け入れ、その中から製品になる材は製材し、工場端材や製品にならない材は発電の燃料とするカスケード利用を行っている。
- ②安定した丸太の受入と製品供給のために、木材需要が少ない時は木材の天然乾燥、需要が多い時は天然乾燥材を加工し、天然乾燥工程にバッファ的機能を持たせた。

## 効果(実行性・持続可能性)

- ①当該事業の製材・加工・発電関連で雇用創出は288人。原木・製品の運搬等を考えるとかなりの雇用を創出しており、地元への経済効果は約100億円/年と見込まれる。
- ②輸入材・集成材の代替となり得る国産材・集成材を年間約10万m<sup>3</sup>生産(これによる原木消費量は30万m<sup>3</sup>)。
- ③大型製材・加工によるコストダウンや、発電用の燃料を工場端材や製品にならない材を運搬することなく燃料利用することで、減価償却が終わった後、木質バイオマス発電の売電価格を15円/kWhとしても成り立つ見込みであり、当該事業は経済的に自立でき今後の展開に期待できる。

## 参考図表



日向モデルフロー図

# デジタルネイティブ世代へのプログラミング教育 ～日本の周回遅れを取り戻す～



岐阜市（岐阜県）

発表者：教育委員会事務局 学校指導課 教育研究所 副主査 赤地 仁志 氏

## 取り組み概要

### ▼課題意識・取組みの方向性

世界が Society5.0 へと向かう潮流の中で、日本の教育は立ち遅れている。将来社会を担う子どもたちにとって、デジタルネイティブ世代の強みを活かしながら ICT を使いこなし、異質な文化や価値観を持つ多様な人たちと協働して新たな価値を創り出す力が求められている。

全国の課題を先取りし、岐阜市からスタンダードを創る気概で、かねてより教育分野におけるコレクティブ・インパクトを意識し、産・学・官・地域が連携した「ICT・プログラミング教育」を実践・推進。

### ▼取組内容

市内全 68 小中学校や学校外の場（科学館、小学校跡地等）において、多様な企業や大学等が関わり、様々なプログラミングツールを活用した学習・体験の機会を創出。また、子どもたちの学習を支援する人材（教員、学生、シニア等）を持続的に育成していくためのシステムを地元大学と連携して構築。自治体の投資コストは最小限に抑えながらも、各ステークホルダーが Win-Win の関係になる座組みで推進。



学校「Pepper」プログラミング授業



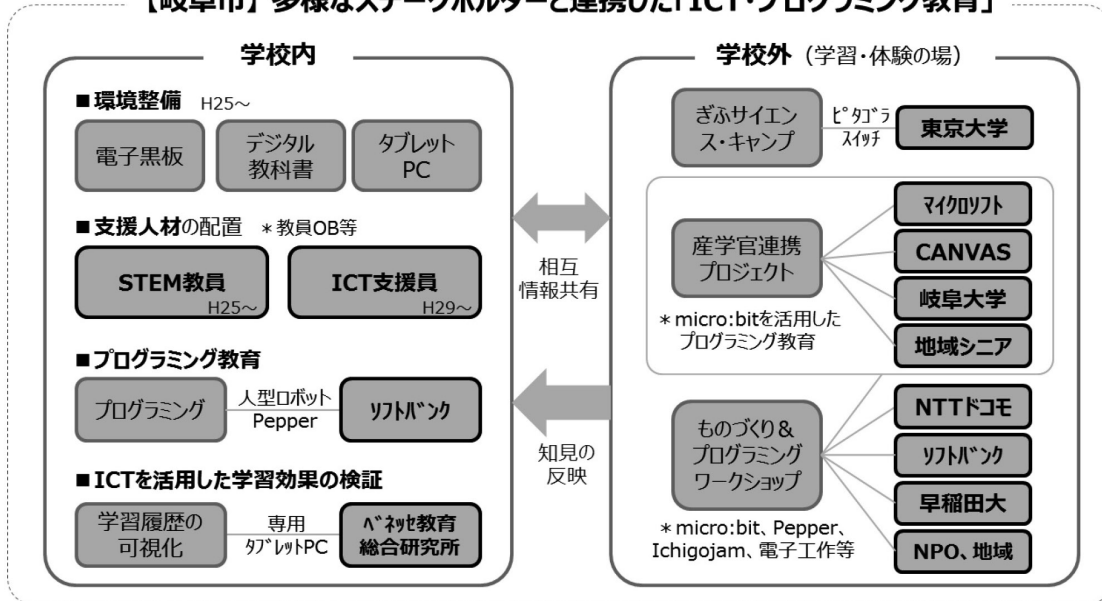
学校外の場での「micro:bit」の体験ワークショップ



岐阜大学での「micro:bit」の授業

## 参考図表

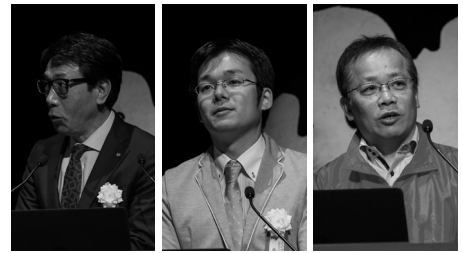
### 【岐阜市】多様なステークホルダーと連携した「ICT・プログラミング教育」



全員参加の地域づくり賞

“医住”から“移住”へ  
 ～地域総出で支える安心医療のまちづくり・10年の軌跡～  
 高浜町(福井県) 福井大学 たかはま地域医療サポーターの会

発表者：高浜町 町長 野瀬 豊 氏  
 高浜町 健康のまちづくりプロデューサー  
 福井大学医学部地域プライマリアケア講座 教授 井階 友貴 氏  
 たかはま地域医療サポーターの会 事務局 小幡 真宏 氏



取り組み概要

**医療関係者の移住＝“医住”がもたらす、安心医療のまちづくりと一般住民の移住促進。**

人口減少社会である。問題は地方において深刻であることは言うまでもなく、効果的な移住促進対策が必要である。そのために必要不可欠なものの1つが医療機能の確保であるが、地方では医療機能・医療者の確保もまた、難しい局面にある。本取り組みは、医療関係者の移住＝“医住”を促すための方略を地域総出で実施し、安心医療のまちづくりを実現することにより、一般住民の移住を促進させること、すなわち「健康で安心して加齢できる社会」を目指したものである。以下の図表に示す成果を残しており、今後も継続する予定である。

(1) “医住”を促進させる魅力的なプログラム

- 1) 全国初の市区町村単独医学部寄附講座「地域プライマリアケア講座」の設置
- 2) 医療も地域も体験する「夏だ！海と地域医療体験ツアー in 高浜」
- 3) 地域とのかかわりを学ぶ「コミュニティケアセンター」

(2) “医住”を定着させる地域総出のサポート

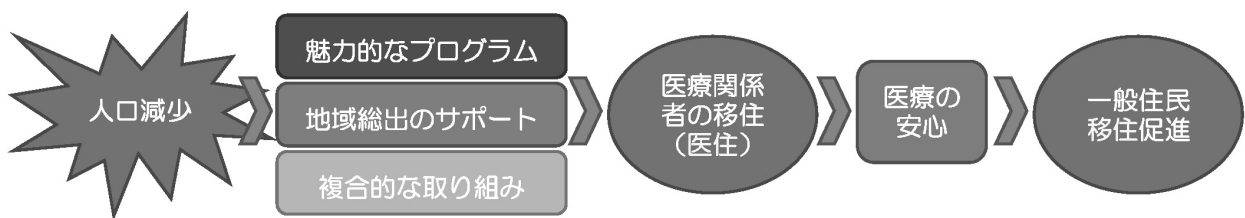
- 1) 地域医療を守り育てる住民活動「たかはま地域医療サポーターの会」
- 2) 第2の故郷をつくる「たかはま海の親プロジェクト」
- 3) 健康に詳しい住民が医療を支える「健康マイスター養成塾」

(3) “医住”の促進と定着、複合的な取り組み

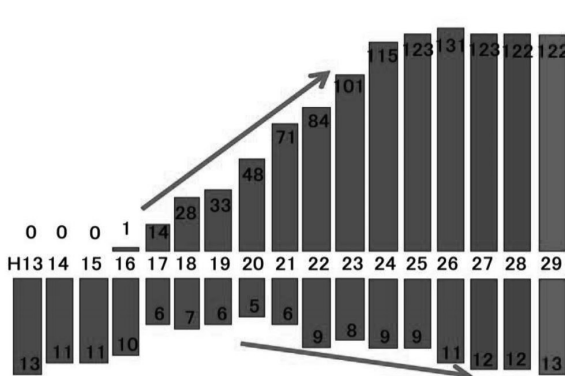
- 1) 地域協働で進める健康市井会議「けっこう健康！高浜☆わいわいカフェ」（健高カフェ）
- 2) 地域協働で進めるまちづくりの実践「健康のまちづくりアカデミー」



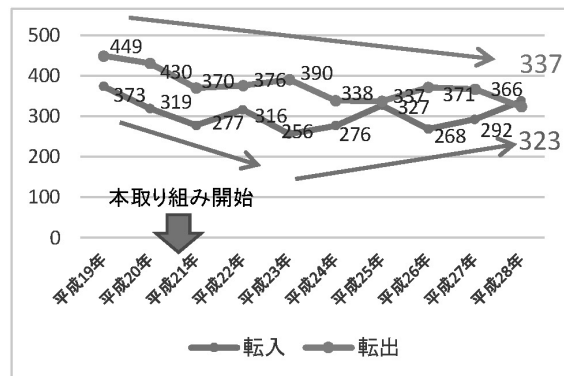
高浜町マスコットキャラクター「赤ふん坊や」も大活躍!!



参考図表



図：研修者の数(上)と、医師数(下)の推移



図：高浜町の転入・転出者数

# 里海よるこんぶプロジェクト

## 一般社団法人里海イニシアティブ

吉澤 保幸 氏 (プラチナ構想ネットワーク特別会員)

発表者：一般社団法人里海イニシアティブ 理事 高橋 俊和 氏  
株式会社鈴音 取締役 横濱元町 霧笛楼 総料理長 今平 茂 氏



### 取り組み概要

#### 50のメリットや特徴

1 環境貢献 2 温暖化対策 3 漁業者の閑散期の副収入 (育成中は手のかからない事業) 4 多くの世代が関わられる仕事 5 コンブは他の海藻に比べて、成長が早い 6 栄養価の面でも海洋ミネラルが豊富 7 素材食品としてのバリエーション豊か 8 収穫されたコンブはまずは食品として活用。廃棄するところが全く無く、9 健食、10 医薬品、11 化粧品、12 飼料、13 肥料そして 14 天然繊維として技術も整ってきました。15 環境教育や 16 食育の面でも 17 また介護食の面でも必要とされています。

18 種コンブの仕込みは子供達でもできるので、19 体験型の授業には適しています。20 可能であれば生育途上も観察して、12 収穫時は食材として堪能しながら、22 シンポジウムなどを行なっています。

23 水揚げしたコンブは冷凍され保管されるものと 24 直ちに加工されるものと分けられる。25 一次加工は基本的には全て湯通しますが、全く新たな観点での 26 新システムを考案中です。

3年間の 27 海洋都市横浜で新しい 28 環境循環型のプロジェクトが 29 生物の多様性の面でもその基盤となる。30 陸上との端境の海域をより環境を良い状態にするには最適な事業である。31 小型のサップ舟でも仕事ができる。

32 ブルーカーボン事業としての拡張性を考える時近い将来、33 膨大な量のコンブが得られる事となり、34 多次元なステークホルダーの開拓も同時に行った事で 35 全国展開を可能にした。

横浜市を始め 36 行政との関係の中で漁業者と計画養殖に取り組みますが、37 明確な販路も確立しました。ここ3年で 38 その販路開拓の一部は稼働し始めました。39 地域性を重んじ、地産地消や 40 雇用を生むことが考えられます。しかし、41 中央企業との取引も同時に可能とします。

42 生コンブでの新たな食品は 43 生コンブそのものもあれば、44 食材の裏舞台で活躍できる素材として供給できます。コンブは飼料として鶏・牛・豚に、肥料としても 45 横浜野菜等の裏方になりはじめています。

46 里海の再生の騎手となり、47 日本の海のミネラルがカタチを変えて、48 海を越えて多くの子供たちやヨード欠乏症の人たちに救いとなることでしょうか！ 49 まさに古典的ではあるものの最新の環境循環型プロジェクトとなる事でしょうか！ 50 そして、多く人たちの笑顔を観ることができるでしょう！

### 参考図表

『里海 よるこんぶ プロジェクト』はSDGs (9action) と共鳴する環境循環型のサステイナブルな最先端の事業



グッドスタート賞

(株)リクルートと北九州市の連携協定による女性就業支援  
～一人ひとりが自分らしく働ける社会の実現に向けて～



株式会社リクルート

発表者：HR 研究機構 イクシオン事務局 事務局長 二葉 美智子 氏

取り組み概要

リクルートは、2015年7月に「子育てしながら働きやすい世の中を、共に創る。」を目指す「iction! (イクシオン) プロジェクト」を立ち上げ、行政や企業、NPO 団体と共働しながら「はたらく育児」の実現を目指してまいりました。



2017年7月には、福岡県北九州市と“女性の就業及び子育てとの両立支援に関する連携協定”を締結。北九州市は、市役所内に「女性の輝く社会推進室」を配置し、国・県と連携した女性の就業・キャリアアップ・創業・子育てとの両立をワンストップでサポートする「ウーマンワークカフェ北九州」を日本で初めて設立するなど、積極的に女性活躍推進に取り組まれています。

<北九州市との連携協定下における具体的な取組み>

①就業を希望する子育て中の女性の意識啓発や行動の喚起

- ・子育て中の女性を対象とした意識啓発プログラム『WORKFIT for MOM』の実施 (図1右)
- ・将来の家計を可視化『iction!みらい家計シミュレーション 北九州市版』の立ち上げ (図1左/ 図2)
- ・株式会社リクルートジョブズが企画運営する無料求人情報メディア『TOWN WORK(タウンワーク)』北九州エリアでのタイアップ

②子育てや介護等の時間制約がある中でも働ける時間帯の仕事創出

- ・リクルートグループで蓄積した時短 JOB 創出のノウハウ提供、セミナーの開催

③妊娠や出産による離職防止

- ・両立を考えている妊婦向けの職場復帰ナビゲーションアプリ『カムバ!』の利用促進
- ・両立を希望する妊娠中部下を持ったマネジメント向けメルマガサービス『カムバ! ポス版』の利用促進

※本取組みの活動効果を第三者評価機関にて SROI で算出、約 10.5 倍の費用対効果が証明されました。女性の就業促進・子育て支援分野で、働き方改革にもかかわる官民連携事業の SROI 評価としては日本初。

レポート詳細 (<https://www.recruit.co.jp/sustainability/data/iction/kita-kyushu/>)

参考図表

・(図1) 右: WORKFIT for MOM セミナー/左: iction!みらい家計シミュレーション告知例

・(図2) iction!みらい家計シミュレーション 北九州市版

## ソーシャル・インパクト・ボンド (SIB) を活用した社会的課題解決 ～糖尿病性腎症重症化予防事業に対する取り組み～



株式会社三井住友銀行 株式会社 SMBC 信託銀行  
一般社団法人社会的投資推進財団

発表者：株式会社三井住友銀行 成長産業クラスター 部長 西村 克俊 氏

### 取り組み概要

神戸市の実施する糖尿病性腎症重症化予防事業において、本邦初となるソーシャル・インパクト・ボンド (SIB) を組成。糖尿病性の腎症患者約 100 名を対象に、神戸市から委託を受けた民間事業者が食事療法などの保健指導を行い、事業に係る資金を民間資金提供者である弊行や個人投資家から調達。資金提供者や、患者の血糖値や病状が改善するなど事前に定めた成果に応じたリターンを享受する仕組み。

### 行政のメリット

- ・ 予防事業を推進することで、「市民の QOL の向上」や「将来の行政コストの適正化」に期待
- ・ 行政コスト削減分に限らず、「行政効果が高い分野への適応」も可能
- ・ 既存事業を成果連動に変更していくことで、更なる事業効果の期待
- ・ 初期投資を民間資金で賄うことで、行政の財政的なリスクを抑えながら民間の新しい取り組みを活用

### 市民のメリット

- ・ より質の高いサービスを受けることによる QOL の向上

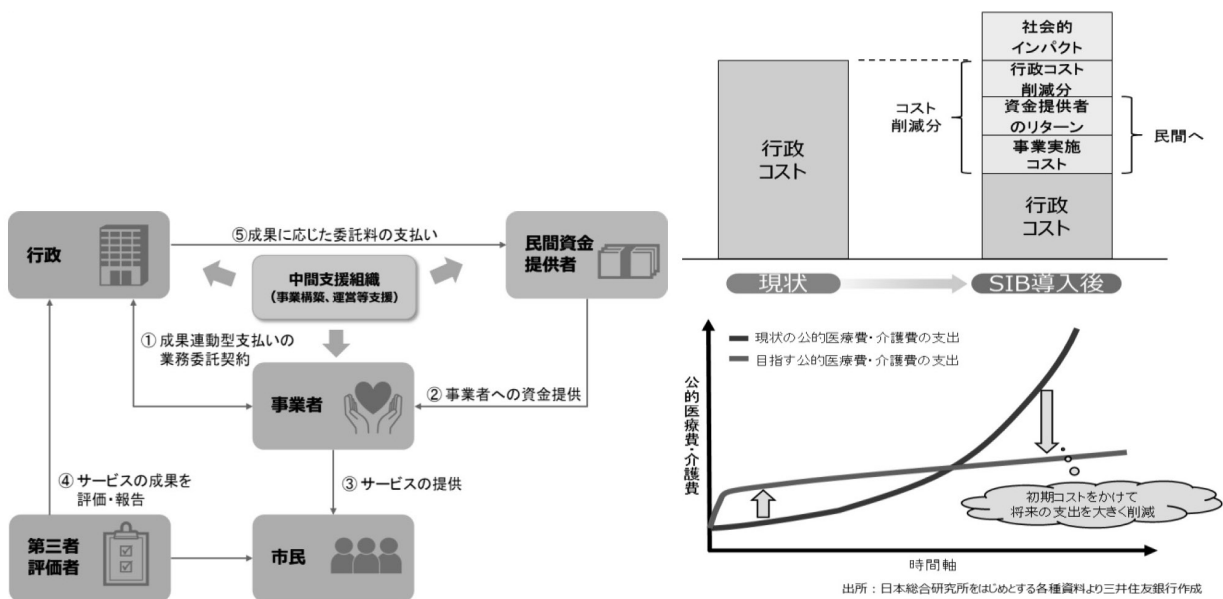
### 民間事業者のメリット

- ・ 成果を可視化することによる成果重視の質の高い柔軟なサービスを提供

### 資金提供者のメリット

- ・ 社会的課題解決に貢献
- ・ 新たな運用機会の享受

### 参考図表



## 次世代育成賞

## 「読書を愛するまち・あらかわ」の展開

## 荒川区 (東京都)

発表者：荒川区 区長 西川 太一郎 氏



## 取り組み概要

## 背景

区では人生百年時代を見据えて、「幸福実感都市あらかわ」実現のため「いつでも、どこでも、誰もが本に親しむことができる」よう区民、家庭、学校、地域、区内関係機関等が一体となり、読書環境の整備を図ってきた。

## これまでの主な取り組み

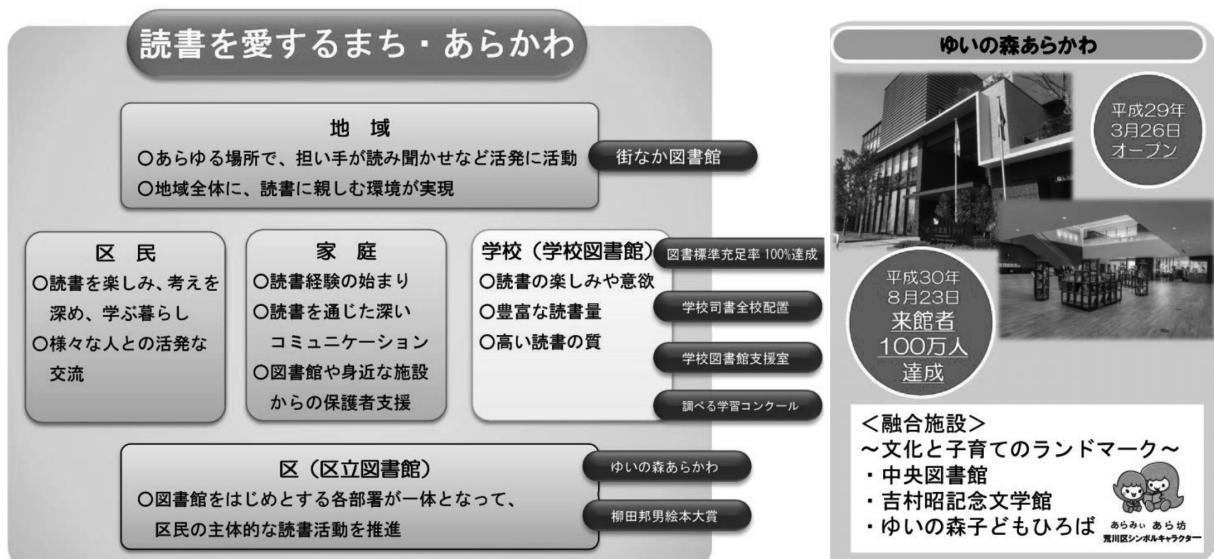
学校図書館の環境整備を強化するため、平成 18 年度に学校図書館の図書費として単年で 1 億 7000 万円の予算を確保し蔵書を一気に充実させた。平成 19 年度には全小・中学校に「学校司書」を配置し、平成 21 年度には学校司書を強力にサポートする体制を構築するため「学校図書館支援室」を設置した。結果、学校図書館は全国トップレベルと言われるようになり、こうした荒川区の取り組みは学校司書がはじめて法律上に位置づけられた「学校図書館法」の改正にも繋がった。また、平成 20 年度には自分が読んだ絵本の感動などを、柳田邦男氏へ宛てた手紙形式で募集する「柳田邦男絵本大賞」を創設し、荒川区を代表する事業となっている。

区立図書館の整備では、平成 28 年度に中央図書館、吉村昭記念文学館、子どもひろばが一体となった、新しい発想の滞在型施設「ゆいの森あらかわ」が開館した。

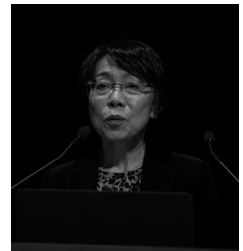
## 今後の取り組み

これまでの取り組みを次世代にも繋げることができるよう、平成 30 年 5 月に「読書を愛するまち・あらかわ宣言」を策定した。宣言策定後は身近な場所で読書を楽しめる「街なか図書館」の整備を進めている。平成 32 年度中には老朽化が著しい尾久図書館を近隣の公園内に移転・開館し、今後も魅力あふれる図書館づくりを目指す。

## 参考図表



# 子供たちの「伸び」を見つめ、「やる気」を引き出す 埼玉県学力・学習状況調査



## 埼玉県

発表者：教育委員会 教育長 小松 弥生 氏

### 取り組み概要

埼玉県では、子供たちの環境や特性が様々な中で、子供がどれだけ高い結果を出したかではなく、子供たち一人一人の力をどれだけ伸ばせたかどうかが教育にとって最も重要だと捉えています。しかし、従来型の調査では、子供の伸び(変化)は分かりません。どれだけ子供が頑張り成長しても、教員の指導が効果的であってもその成果が把握できていませんでした。そこで、平成 27 年度から新たな学力・学習状況調査を開始しました。

#### 【子供たち一人一人の伸びが分かる学力・学習状況調査】

##### ＜本調査の特徴＞

- ①同一児童生徒を6年間(小4から中3まで)継続的に調査(パネルデータ)
- ②国際的な調査であるPISAなどに用いられる調査手法を活用(IRT:項目反応理論)  
＝問題の難易度を調整することで、  
異なる調査(例:小4で受けた調査と小5で受けた調査)間での結果比較が可能

##### ＜本調査により実現可能＞

- 子供たちの学力の伸び(経年変化)を継続的に把握
- 良い指導を実施している学級・教員を把握
- 学力向上の要因の分析
- 一人一人の状況に応じた指導

学力の伸びを把握することで、子供たちのやる気を引き出し、躓きを早期に発見する、良い指導を実施している教員の取組を共有する、エビデンスに基づく学校での指導改善サイクルを確立することを進めています。

#### 【非認知能力の把握】

本調査では自制心や勤勉性といった非認知能力も把握しています。調査結果を分析した結果、非認知能力を伸ばすことが学力を伸ばすことにつながるということも見えてきました。学力の伸びに加え、元来、日本の教育が大切にしてきた非認知能力も把握できるということで、他の自治体からも関心を集めています。

### 参考図表

#### 埼玉県学力・学習状況調査～子供たちの伸びが分かる～

##### ■調査概要(平成27年度から実施)

- ・対象は県内公立小・中学校(さいたま市除く)の小学校4年生～中学校3年生 ⇒ 毎年約30万人に実施
- ・教科は国語、算数・数学、英語(中2・3)
- ・児童生徒質問紙等も実施 ⇒ 非認知能力や学習態度なども把握

##### ■調査の特徴

##### ①子供の「学力の伸び(経年変化)」などを 継続して把握できる自治体初の調査

- ・小4～中3の同一児童生徒の変化を継続把握(パネルデータ)
  - ・PISA調査と同様の調査手法を採用(IRT:項目反応理論)
- 【パネルデータ】  
平成27年度 A小学校 小4 → 平成28年度 A小学校 小5 → 平成29年度 A小学校 小6  
同一の児童を継続把握
- ※これまでの調査は、異なる児童生徒の状況を把握(毎年度小5で調査など)しており、問題の難易度調査も行っていないため、学力の経年比較ができない

##### ②学力向上の要因の分析が可能



##### ③学級・教員の効果的な取組の共有が可能

H29 クラス	伸びた児童の割合	
	国語	算数
5-1	73.4%	96.5%
5-2	91.8%	75.1%

効果的な取組の共有  
学校・教員のPDCA確立  
につながる

学力が伸びた子供の割合などが分かるため、効果的な取組を実施した学級・教員が分かる

##### ④一人一人の状況に応じた指導が可能

個々の子供の学力の躓きや非認知能力などが分かる  
子供の状況に応じた効果的な指導や授業改善が可能



地域パートナーシップ賞

13 市町村広域連携による森林資源フル活用事業

会津地域森林資源活用事業推進協議会 会津森林活用機構株式会社  
住友林業株式会社 株式会社アルファフォーラム

発表者：会津森林活用機構株式会社 取締役 渡部 一也 氏  
住友林業株式会社 資源環境本部 山林部 グループマネージャー 岡田 広行 氏



取り組み概要



地域が豊かになることとは何か？高齢者が安心して暮らせる地域とは何か？「食」と「エネルギー」の自律ができれば地域は自立できる。自立できれば地域外との経済取引行為を積極的に拡大できる。

これまでエネルギーの選択肢が少なすぎた。薪炭林はどこにいったのか？そこにあるエネルギー源に目を向ければ、25 万 ha 超の森林資源があるではないか？木質バイオマスからの「熱」という選択肢を確実に定着させ、CLT など新しい建築用材の材料供給も行い森林資源フル活用事業に取り組む。（このために必要と思われる会津材 SCM システムを下図に示す。）

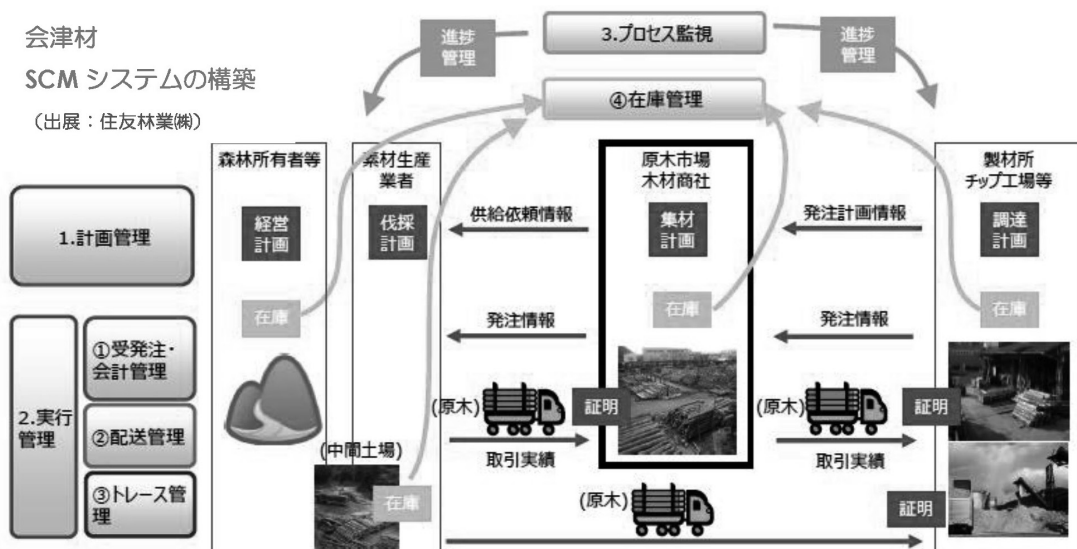
木材の中間処理（製材・チップ化）は、「丸太を高く買って燃料や用材を安く売る」ことが求められる。だから山にお金が還る。徹底的なコストダウンをするためには一定規模以上の原木を集められるかが課題である。革新的なアプローチと技術開発が必要だが、やる気になれば可能と判断して取り組みを始めた。丸太を高く買って燃料を安く売るためにはこれまでのような業態区分では難がある。川上～川下まで一貫した経営が必要であるとわかった。

経営スパンの違う川上～川下までつないで継続するためには地域の生活者まで巻き込んだ取り組みが必須だ。例えば高校生から 69 歳まで、この事業に何らかのボランティア参加をいただけるのであれば 70 歳からは暖房と温浴シャワーの必要熱相当の費用は「無料」とすれば、老後の大きな安心につながる。ならば若いうちから住み続けてみよう・・・と考える基礎となるはずだ。現状いくらお金を市場に増やしても流通しないのは老後が不安だから貯めてしまうからだ。老後の不安をひとつずつ取り去っていくことが地域経済循環につながる。

真に豊かな地域の実感で地域活力が生まれ地方創生につながると考える。

自身が住みたいまちづくり、森林資源フル活用で実現する取り組みである。

参考図表



## 地域パートナーシップ賞

### ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト

#### 東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社

発表者：秋田支社 総務部長 酒井 宏彰 氏

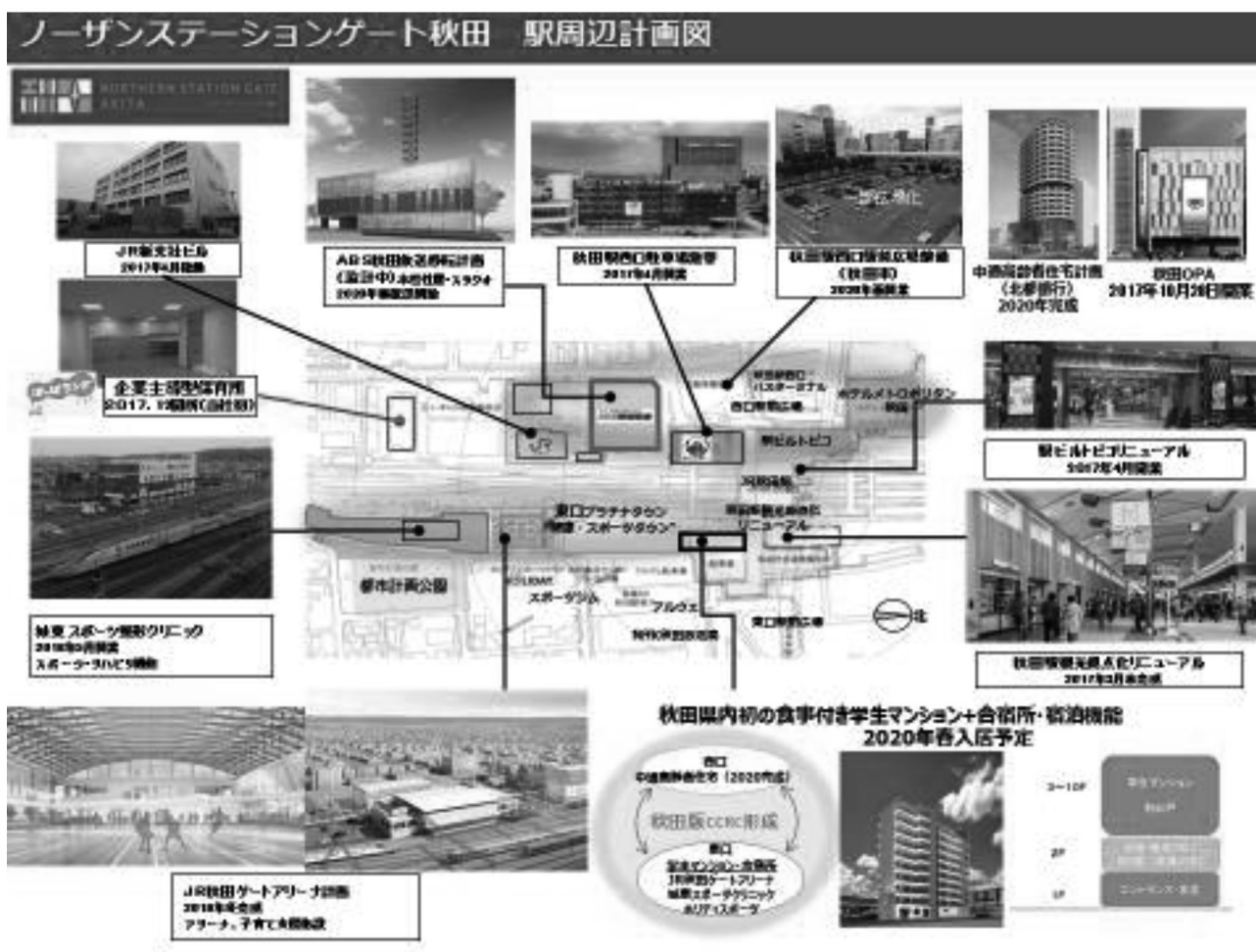


#### 取り組み概要

JR東日本秋田支社では、地域と連携して地方創生・コンパクトなまちづくりを推進する「ノーザンステーションゲート秋田」プロジェクトを、次の20年に向けた秋田の活性化の取り組みとして進めています。

- (1) 自社用地の活用による新たなまちづくりの推進
- (2) 既存施設のリニューアルや機能強化による顔づくり・拠点づくりの推進
- (3) 中心市街地へ賑わいを創出する取り組みの推進
- (4) 鉄道会社ならではの観光流動の創造(特別列車の運行、地域の祭礼とのコラボ)

#### 参考図表



## 「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告

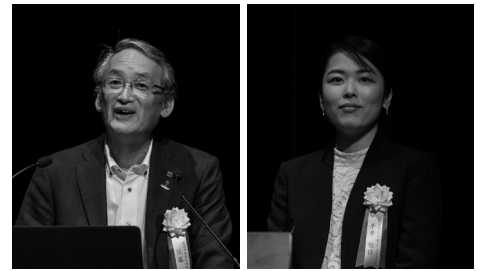
### [第4回 大賞・総務大臣賞] 雲南市

#### 幸雲南塾 (大人版)

～若者チャレンジによる持続可能なまちづくりへの挑戦～

雲南市政策企画部長 佐藤 満 氏

特定非営利活動法人おっちラボ 若チャレ・コーディネーター 平井 佑佳 氏



雲南市は、出雲市と松江市の南側に位置しています。出雲の南で「雲南」です。高齢化率は、2015年の国勢調査で36.8%、今はさらに高齢化が進んでいます。高齢化率36.8%は、日本全体の25年先の値であり、その意味で雲南市は日本の最先端をいくまちです。

市では「子ども×若者×大人 チャレンジの連鎖による持続可能なまちづくり」に取り組んでいます。第4回大賞・総務大臣賞を受賞した若者チャレンジの活動を具体的に進めているのが「幸雲南塾」です。市の主催で、次世代の地域の担い手を育むことを目的に、2011年から活動しています。参加者はやりたいことや地域で実現したいことを持ち寄り、その実現に向けてトライアルを重ねていくという実践型の塾です。伴走型支援で個別対応をしながらトライアルをサポートしています。具体的には、事務局コーディネーターと月に1～2回面談を実施、プランの進捗や課題を共有しながら、必要な協力者の紹介や情報提供を行います。状況や課題に応じて、メンターとの課題整理や市民との意見交換会、ワークショップの実施、さらには都市部人材を活用した支援、地域外の人たちとの繋がりを創出する等、幅広い支援を行っています。

「おっちラボ」は、幸雲南塾の卒業生が中心となって設立された、塾生の活動継続支援や支え合いを実現するための中間支援組織です。地域の中間支援組織として、「つなぐ」ということを意識して活動しています。多くの人が暮らす地域社会と、そこで活躍したいと望む意欲ある若者をつなぐ、また、その若者が活動する中で困難に向き合った際には、必要なりソースを地域の内外から引っ張ってきてつなぐということを行います。

これまでに、幸雲南塾から110名以上の卒業生が輩出されましたが、その中には起業や事業化が9件、

家業継承が3件、その他市民ニーズに応える事業を展開する方が多数出てきています。ケアが届かない在宅医療の空白地帯を埋めるべく暮らしに寄り添った看護・医療のケアの実現を目指して訪問看護に取り組む方、買い物支援と介護予防を一体化したショッピングリハビリ支援事業を展開する方、自身の産後経験や知識を多くのお母さんたちに伝えていきたいという思いから助産院を開業された方、コミュニティナースという新しい看護モデルの確立を目指して株式会社を設立された方等、多数のチャレンジャーが生まれてきています。

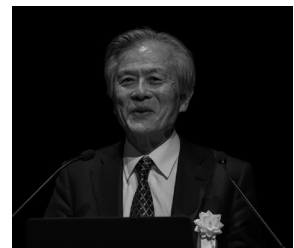
多数のチャレンジャーが生まれ、その周辺でも様々な変化が生まれています。学校教育とチャレンジャーの関わりも深くなり、地域のムードが徐々に変わりつつあることを実感しています。具体的な成果もありました。幸雲南塾を通じて、51名の新規雇用と2.8億円の経済効果、さらには11名の移住があったことがわかりました。移住者の多くが、過疎地域での流出が危惧される20～30代女性であることも大きなポイントであると感じています。

このように、幸雲南塾を中心として様々な活動が生まれてきていますが、これをさらに加速させる仕掛けとして、「雲南スペシャルチャレンジ」というふるさと納税による応援資金と融資を組み合わせた資金調達支援も始まりました。若者チャレンジを地域全体で支える仕組みです。また市では、社会課題の解決を目指す人やNPO・企業が提案するチャレンジを進化させる努力をするまちとして「雲南ソーシャルチャレンジバレー構想」について議論を進めているところです。

本日、このような報告の機会をいただき、一層のチャレンジをしていきたいと意を新たにいたしました。ありがとうございました。

## | プラチナ構想ネットワークの活動成果と今後の展望

プラチナ構想ネットワーク 会長  
小宮山 宏



### 活動テーマとフェーズ

プラチナ構想ネットワークの自治体会員は159名になりました。全国、約1,700の自治体の1割弱に参加いただいています。

活動は、2010年からの第1フェーズで理念の形成・具体化を実施し、2013年からの第2フェーズでは理念の明確化・普及化を図り、現在、第3フェーズとして社会実装を本格的に進めています。

### 活動概要

プラチナ大賞は、先進的な取り組みの表彰と発信を目的として開催しています。これまでに49団体を表彰しています。理念の形成、普及という意味で非常に重要なイベントです。

プラチナシンポジウムは、先進的な取り組みの発信と提言を目的に開催しています。単に有識者にお話しただけのものではなく、前に進むための結論を出すためのものです。これまでに11回開催しています。

プラチナ懇談会は、会員相互の交流、意見交換を目的に開催しています。少人数で意見交換を行うため、情報交換の場として重要な機会となっています。これまでに89回開催しています。

プラチナイブニングセミナーは、先進的な取り組みの発信と議論を目的に開催しています。新しい知恵を得るための非常に重要な機会になっています。これまでに12回開催しています。

プラチナ構想スクールは、自治体の中堅職員を対象に開催しています。これまでで10期開催し、197名の修了生を輩出しました。今後も修了生の連携強化を図り、ネットワークを充実していきます。

プラチナ未来人材育成塾は、全国の中学生を対象に未来のリーダー養成塾として開催しています。これまでに6回開催し533名の卒業生を輩出しています。この塾の特徴は2つあり、1つは子どもがそうなりたいと思う大人に講師をお願いしていること。2つ目は中学生、大学生、シニアによる多世代交流があることです。この多世代交流により活気がある塾になっています。

プラチナ保健師スクールは、これまで4回開催し50名の修了生を輩出しています。

また、課題の構造化や解決方策の検討を目的としたワーキンググループやプロジェクトを設置し、水素活用、森林資源フル活用、ツーリズム等をテーマに活動しています。

### 社会実装

プラチナマイスター事業…プラチナマイスター事業を株式会社として設立します。この事業は、シニアの働ける場所、働いて意義のある場所を作り、シニアに活躍してもらうものです。

ここで重要になるのがシニアのマインドです。「過去×いばる」ではなく「未来×コミュニケーション」という未来について一緒に考えるというマインドが必要になります。こうしたマインドを持つシニアが、社会で活躍しプラチナ社会の実現を促進していきます。

株式会社にした理由は、「1人の人間の真剣な専任は、100人の有識者会議に勝る」ということです。株式会社で言えば社長が本気でやるということが、社会を変えていく原動力になると確信しています。

森林資源フル活用…日本は急斜面だから林業に向かないと言われていますが、機械を使用した近代林業を行えば30度の傾斜まで可能になります。国土の3分の2が森林で覆われている日本では、林業が地域創生の財源として非常に重要な産業になり得るため、株式会社を作りスタートしています。

### プラチナ社会の実装活動と横展開

種子島には大学はありませんが、島外から19の大学の研究者や学生が入り、種子島をフィールドとして様々な研究および実装活動を行っています。ここが非常に活性化してきています。また、島の高等学校では、島の未来を考えるグループワークを実施し、発表会を公開で行っています。地域の最高学府の子どもたちによる発表のため、市民が集まり、種子島はプラチナ社会に対する理解が非常に強い島になっています。私はこれを大学の枠を超えて外に出るという意味で「超大学」と呼んでいます。

論理と論拠、これが科学の基本構造ですが、これだけでは社会は動かない。ここにナラティブ(条理・物語)が加わることで、社会実装が進んでいきます。この方法は東京大学プラチナ社会総括寄付講座の菊池准教授が中心となり行われているため「プラチナ菊池メソッド」と呼んでいます。これが今後の地域創生の基本構造になっていくと思います。

今、種子島で実施している方法を置賜地方、岩手県、和歌山県に展開することを考えています。特に置賜地方ではプラチナ菊池メソッドの展開と同時に、第4回プラチナ大賞で審査委員特別賞を受賞した福岡県みやま市の地域エネルギー会社の横展開を図っています。

## 審査委員長 講評

プラチナ大賞  
審査委員長

吉川 弘之



有名な賞と言えば、科学の新発見をしたものに対して与えられるノーベル賞があります。ノーベル賞の歴史には、科学の発展が非常に強く刻まれており、どうやって人間が科学を作ってきたのかが見えてきます。賞とは、努力した人間によって色々なものが作られた時、作った人たちの後を追っていくと、科学とは何かが逆に見えてくるような性質があると思います。

そこで、プラチナ大賞について考察すると、仕組みは未来の人間の在り方を考えながら、課題を認識し解決する取り組みに対して、表彰するものです。その取り組みは一つの成功例として次に続く人たちに示す性質を持っています。

他律的なものではなく、自律的に実施した取り組みに対して、表彰される賞という意味で非常に重要な、新しい視点を持つ賞だと思います。

プラチナ大賞の構造を考えると、3つのブロックに分かれます。1つ目は、まず自分たちの身の回りにある問題を発見するという事。2つ目は、その発見したものを、何で解決するか、あるいは何でそれを改善するかをデザインすること。3つ目は、そのデザインを人々の間に広め、共感を得て実現していくということです。この3つのブロックがうまく一つの構造になっている取り組みは、お手本性があり、後に続くものがそれを学ぶことができると思います。

大賞・総務大臣賞を受賞した養父市の取り組みは、地方都市の人口減少や高齢化といった問題を交通で解決しようというものです。人の1年間の移動量が、その国のGDPに比例すると

いう統計があります。人の移動が非常に重要なファクターということを一つの仮説とし、その結果、市民による交通に1つのソリューションを見つけ実現したものです。交通には既存の企業があり、一種の利益構造がある中に入り、取り組みを実現していくわけですから、非常に抵抗があったのではないかと思います。そうした抵抗を説得しながら、自分たちの理論を社会的に広げていったという功績は非常に大きいものがあると思います。

大賞・経済産業大臣賞を受賞した株式会社シェルターにつきましては、建築という業界で、一種の競争のある中で、非常に強い意志を持ち開拓し取り組みを実現してきたと思います。

会津地域の取り組みは、森林問題を解決するには環境問題を含めて多様なことをしなければならぬという非常に大きな構想です。今後、大きな成果が出ることを期待しています。

中国木材株式会社の取り組みも森林関係です。森林関係の取り組みが各地で起こっています。これは非常に重要なことで、プラチナ大賞という一つの場で日本の大きな流れが見て取れるということです。プラチナ大賞が100年続いたとしたら、ノーベル賞の科学と同じような人間の知恵というものができてくると思います。恐らく、これからの知恵というのは、ただ単にものを分析して発見する、謎を解くという科学だけではなく、良いものをつくるデザインに人々の努力が深く関わっていくんだと思います。人間の努力の系譜というものが、今、このプラチナ大賞で見えるようになった。そして、それが蓄積されることによって、人類は更に良いものをデザインし、悪いものはデザインしないという力を身につけていく、そうした一つの大きな流れを作り始めたんだと実感しています。

最後になりますが、受賞団体の皆様にあらためて心からお喜びとお祝いを申し上げて、私の挨拶といたします。ありがとうございました。

## 閉会挨拶

プラチナ構想ネットワーク  
幹事長

岩沙 弘道



本日は、お忙しい中、長時間にわたり第6回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

また、石田総務大臣、磯崎経済産業副大臣には公務ご多忙の中、ご来臨を賜りまして、ありがとうございました。吉川先生をはじめとする審査委員の皆様には、候補に挙がった各地のいずれ劣らぬ素晴らしい取り組みを審査するという、大変難しいお願いとなりましたが、本当に熱心に、また深くご審議いただきまして、あらためまして厚く御礼申し上げます。その結果、栄えある大賞・総務大臣賞を受賞されました養父市の皆様、並びに大賞・経済産業大臣賞を受賞されました株式会社シェルターの皆様、誠にありがとうございます。心からお祝いを申し上げます。

また、各部門賞を受賞された皆様の取り組みもそれぞれ大賞、大臣賞に勝るとも劣らない、甲乙つけがたいというぐらい、全て素晴らしい業績であると感服いたしました。受賞をお喜び申し上げるとともに、皆様の日頃のご努力に深甚なる敬意を表します。本日の発表を契機に社会実装に向けて更なるご精進を続けていただきたいと思います。

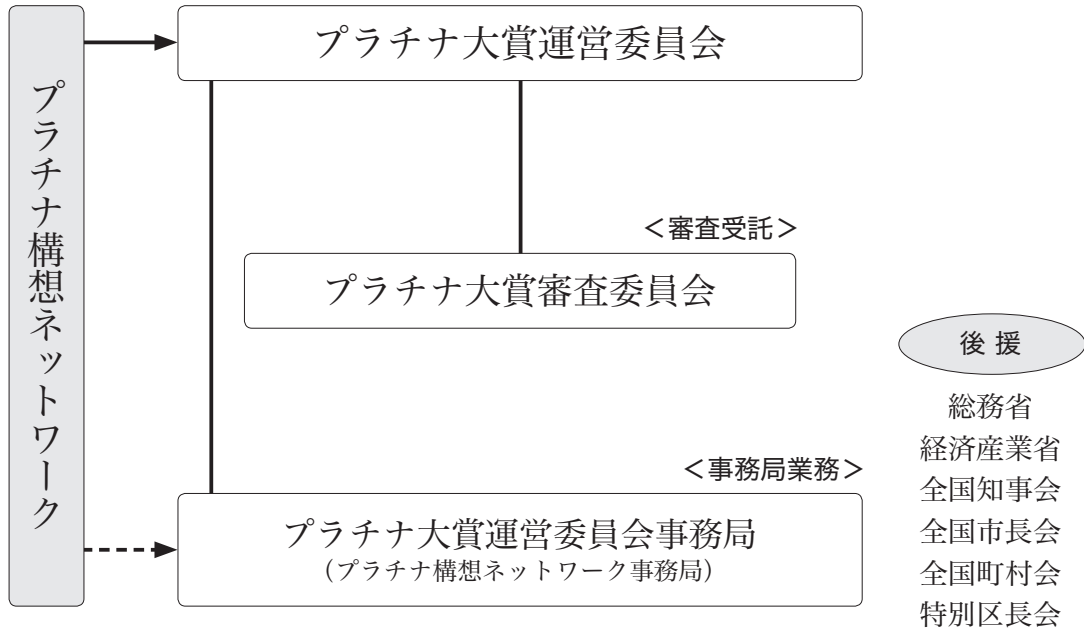
プラチナ構想ネットワークは、わが国のあるべき近未来社会のビジョンを高らかに掲げて、SDGs や Society 5.0 という全体の潮流を踏まえ、社会モデルの実装を進めることを目指しています。そうした活動を通じて、人々の心に将来への希望や自信、あるいは勇気が湧き上がるような、国内を元気付ける前向きなマインドセットも大きな役割であると存じています。その意味で、本日、創造的で気概に満ちた皆様からのプレゼンテーションを拝聴していると、第6回目を迎えたプラチナ大賞が回を追うごとに充実、進化の度を加えて、未来志向の輪が全国に広がりつつあるという手応えを強く実感している次第です。特に今回は従前からこのプラチナ大賞の主役でありました、先進的な自治体に加えて、企業が主体となり、あるいは自治体等と連携して社会の課題解決に取り組む事例が増えてきていることが本当に印象的でした。

プラチナ構想ネットワークでは、こうした優れた取り組みを支援するため、会員ネットワークを通じて積極的に情報発信していきたいと思えます。ぜひとも多くの自治体や企業の皆様にこれまで着実に積み上げてこられた、各地域における成功事例を共有化し、幅広く横展開していくことにより、ともにプラチナ社会の実現を目指していただけることを心からお願い申し上げます。

最後になりますが、これまでプラチナ構想ネットワークをご支援いただいていた、会員の皆様にお席をお借りして、深く感謝いたしますとともに、今後も更なるご理解とご協力をお願いいたしまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

# 資料編

## 運営委員会組織と事務局運営体制



## 第6回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 参加者数

	参加者数
会員・発表団体関係者・その他一般	267
審査委員等主催者側関係者	14
メディア関係者	12
来賓	2
事務局関係者	11
イベントスタッフ	20
合計	326





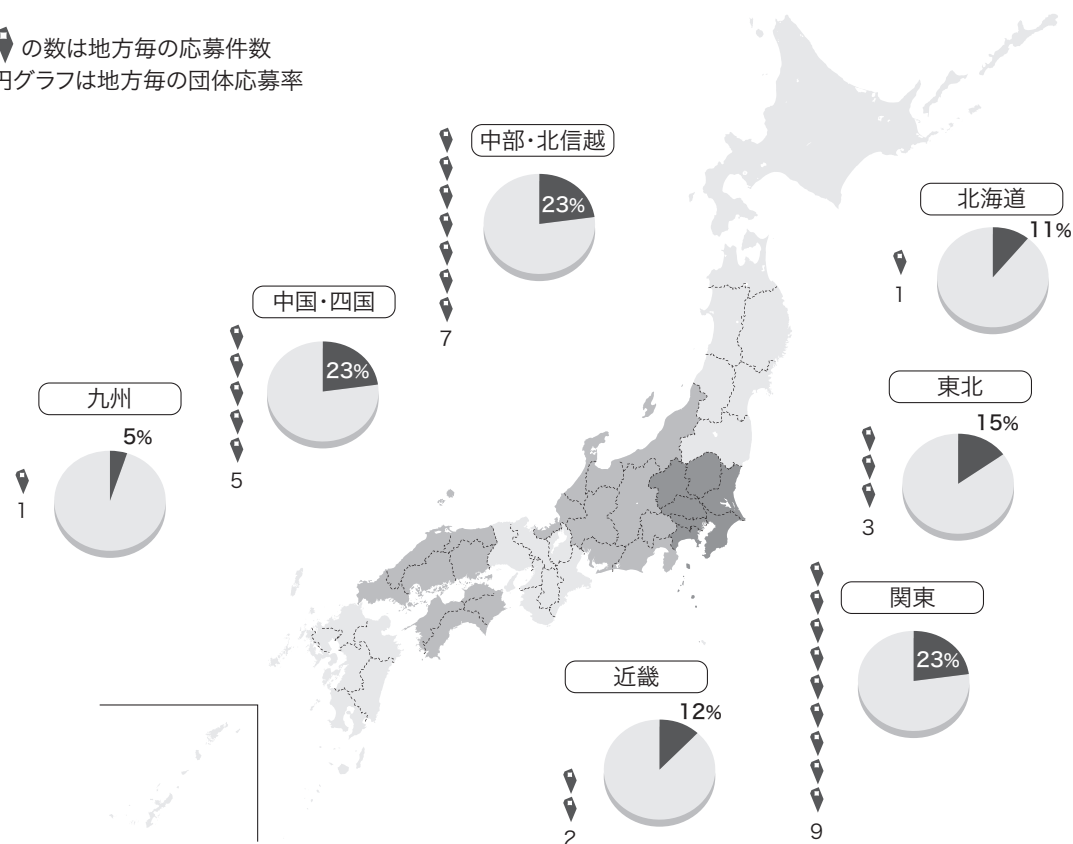
## 応募団体の全体概要

### 【団体属性別】

		都道府県		市区町村		法人		ベンチャー企業		特別		合計	
応募団体数	会員団体数	9	29	19	130	13	82	3	6	4	68	48	315
団体応募率		31%		15%		16%		50%		6%		15%	

(海外会員を除く)

📍の数は地方毎の応募件数  
円グラフは地方毎の団体応募率



### 【地方別】

		北海道		東北		関東		中部・北信越		近畿	
応募団体数	会員団体数	1	9	3	20	9	40	7	30	2	17
団体応募率		11%		15%		23%		23%		12%	

		中国・四国		九州		法人		ベンチャー企業		特別		合計	
応募団体数	会員団体数	5	22	1	21	13	82	3	6	4	68	48	315
団体応募率		23%		5%		16%		50%		6%		15%	

※会員団体数は2018年7月時点

## 主なメディアの掲載一覧

### テレビ

フジテレビ系ニュース【2018年10月25日放映】

NHK 高松放送局ニュース【2018年10月29日放映】

### 新聞

日刊工業新聞 (2018年10月26日号)

#### プラチナ大賞 兵庫県養父市の事業など表彰



石田真敏総務相から表彰状を受け取る小柴勝彦養父市マイカー運送ネットワーク理事長

プラチナ大賞では地域の課題解決につながる自治体、企業の取り組みを表彰している。養父市に表彰状を授与した石田真敏総務相は「取り組みが今後さらに発展し、全国に広がっていくことを強く期待している」とあいさつした。

プラチナ大賞は、全国の自治体や企業の取り組みを表彰する。第6回プラチナ大賞の表彰状を授与した石田真敏総務相は「取り組みが今後さらに発展し、全国に広がっていくことを強く期待している」とあいさつした。

プラチナ大賞は、全国の自治体や企業の取り組みを表彰する。第6回プラチナ大賞の表彰状を授与した石田真敏総務相は「取り組みが今後さらに発展し、全国に広がっていくことを強く期待している」とあいさつした。

秋田魁新聞 (2018年10月26日朝刊)



地域パートナーシップ賞の賞状を受け取る酒井部長 (右)

#### 「プラチナ大賞」都内で最終審査

#### JR秋田支社、部門賞

#### 活性化、地域との連携評価

環境問題や少子高齢化などに選ばれた。地域課題の解決に向けた取り組みを表彰する。第6回プラチナ大賞の最終審査発表会が25日、東京都千代田区のイ・長小宮山宏・三菱総合研究所で開かれた。本県所理事長の主催。全国から秋田53件の応募があり、書類審査を経て14件が最終審査に進んだ。

発表会で登壇したJR秋田支社の酒井安彰総務部長は「田プロジェクト」について発表。審査の結果、地域との連携が評価され大賞に次ぐ部門賞3者で締結したまちづくり連賞地域パートナーシップ賞 携協定に基づいたプロジェクト

トについて説明。具体的な取り組みとして、県産木材を使った駅リニューアルや駅東口のJR秋田ゲートアーリーナ(仮称、19年冬完成、学生マンション)(20年春完成)の建設などを紹介したほか、駅を中心にさまざまな活性化の動きが出ていることをアピールした。

酒井部長は「地域と連携したまちづくりによって地方中核の可能性がある大きく広がっていく。行政や地元大学、民間業者など、さまざまな関係者と連携できたことが大きな財産。積極的に地域活性化に取り組み」と語った。(大原進太郎)

四国新聞 (2018年10月26日朝刊)

福井新聞 (2018年10月26日朝刊)

# 医療者の移住促進評価 高浜町「地域づくり賞」

## 都内でプラチナ大賞審査

地域や社会の課題を解決し、医療関係者の移住を促進するための自治体や企業の取り組みを表彰する「第6回プラチナ大賞」の最終審査が25日、東京都内で行われ、高浜町が部賞の全賞参加の地域づくり賞に選ばれた。「健康で安心して加齢できる社会」を目指して福井大や地域住民と連携し、医療関係者の移住促進に地域ぐるみで取り組んできたことが評価された。

同大賞は、高齢化や人口減少、環境化などの各課題を解決した「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的に、2013年から行われている。今回は全国から48団体の応募があり、1次審査を通過した14団体で最終審査に進んだ。高浜町は医師不足や人口減少を食い止めようと、「医住」を打ち出し医療関係者の移住を促すことで安心感のあるまちづくりと一般住民の移住促進を図ろうと取り組んでいる。09年度から福井大と連携

し、町内に同大医学部の講座を開設。診療の補助や地域医療教育などの研修体制を充実させた。また医学生らに高浜の魅力を感じてもらうとツアを実施している。このほか地元住民宅に研修生が泊まるホームステイ制度の実施や、住民有志団体が地域医療支援へ活動するなどしている。

部門賞を獲得し、野瀬豊町長は「10年間継続した取り組みが評価され、大変光栄に思っている。今後も引き続き地域課題の解決に取り組むたい」とコメントした。(小柳慶彦)

## プラチナ大賞 県の水道広域化、特別賞 住民負担の抑制を図る

地域の課題解決に向けた自治体や企業の先進事業を表彰する「第6回プラチナ大賞」(プラチナ構想ネットワークなど主催)の最終審査が25日、東京都内であり、香川県が応募した「全県初! 県域を対象とした水道広域化の取り組み」が特別賞「新しい時代のインフラ賞」に選ばれた。県の入賞は5回目。

今回は全国から53件の応募があり、書類審査を通過した14団体がプレゼンテーションを行った。香川県は、

県が、総務大臣賞は兵庫県養父市、大賞・経済産業大臣賞はシエルター(山形市)が輝いた。

岐阜新聞 (2018年10月27日朝刊)

# 岐阜市が部門賞受賞

## 社会の課題解決へ取り組み全国審査



技術革新による新産業の創出や独自のな方策で社会や地域の課題解決に向けた取り組みをしている自治体や企業を表彰する「第6回プラチナ大賞」(プラチナ構想ネットワークなど主催)で、岐阜市の「デジタルネイティブ世代へのプログラミング教育」が部門賞のグッドスタート賞に選ばれた。県内自治体・団体の入賞は初めて。(川瀬慎一朗)

**プログラミング教育紹介**

受賞したのは、岐阜市教育委員会が取り組む「官・学・地域連携のプログラミング教育」。

25日に東京都内で最終審査があり、応募した全国48団体の中から書類審査を通過した14団体がプレゼンテーションした。

岐阜市教委は学校指導員の赤地仁志副主査が発案し、企業と連携して全市立小中学校に人型ロボット「ベッツバー」を導入した。ことや、地域の高齢者がプログラミング教育の担い手になっている点などをアピールした。

昨年度、プログラミング学習の成果を競った初の全国大会で青山中学校が金賞を受賞した実績も強調した。

岐阜市の取り組みを紹介する赤地仁志副主査・東京部平代田区

審査員からは「官・学・地域が互いの強みを生かした事業展開が可能とする体制を構築した」と高く評価された。

赤地さんは市の「5年先行く教育」が他の見本として認められたことはうれしく、と入賞を喜んだ。

理想社会への活動顕彰「プラチナ大賞」

# 最高賞にシェルター(山形)



プラチナ大賞を受け、スピーチする木村一義  
シェルター社長  
(プラチナ構想ネットワーク事務局提供)

## 独自技術で木造都市めざす

地域課題を解決し、日本が目指すべき社会を体現している全国の事例を顕彰する「プラチナ大賞」の今年の最高賞「大賞・経済産業大臣賞」に、木造建築マイカーのシェルター(山形市、木村一義社長)の「木造都市づくり」への挑戦・都市に森をつくる」が選ばれた。独自の木造技術を用いた林業振興につながる取り組みが評価された。

プラチナ大賞は、プラチ・小宮山宏(善総合研究所)が主催し、2013年に創設。日本が目指すべき社会の条件に▽エコロジー▽資源の心配がない▽若男女が参加できる▽心もモノも豊かで自己実現を目指せる▽雇用がある▽を掲げ、プラチナ社会と定義。表現に向けたチャレンジを表彰している。

第6回となる今年も全国の自治体・企業から48件の応募があり、14件が1次審査を通過。最終審査発表会が10月下旬に東京で開かれ、木村社長らが参加した。同社は日本で最初に開発した接合金物工法「KES構法」と、3時間耐火の認定を取得した木質耐火部材を採得した木質耐火部材

「COOL WOOD」を用いて注文住宅のほか、大規模・高層建築を手掛けていることや「木造都市」のコンセプト、「最大の木造コンサートホール」としてギネス世界記録に認定されたシェルターなんまようホール(南陽市文化会館)の事例などを紹介した。

木村社長は「10年前に木造都市と聞いた時、周囲には夢物語と思われていた。現在は環境への関心が高く木造化が急速に進んでいる。日本は森林大国で木材利用は地方創生につながる。環境に優しくいぬくもりのある木造建築をつくり、都市も地方も笑顔になる木造都市実現に挑戦し続けていく」と話した。

もうひとつの最高賞「大賞・総務大臣賞」には、国家戦略特区を活用し、住民がマイカーで市民や観光客を運送する兵庫県養父市の事業が選ばれた。



プラチナ大賞と総務大臣賞の表彰状を手にする合徳  
充・養父市国家戦略特区・地方創生課長(左)と養  
父市マイカー運送ネットワークの小柴勝彦理事長  
―養父市役所で

## 「やぶくる」に最高賞

産業創出表彰  
養父市のマイカー旅客運送事業「やぶくる」が、新産業の創出やアイデアあふれる方策などで社会や地域の課題を解決した自治体や企業などに贈られる「第6回プラチナ大賞」(同運営委など主催)で、最高賞となるプラチナ大賞と、総務大臣賞を受賞した。

養父市で今年5月に始まったマイカーを使った旅客運送事業「やぶくる」が、新産業の創出やアイデアあふれる方策などで社会や地域の課題を解決した自治体や企業などに贈られる「第6回プラチナ大賞」(同運営委など主催)で、最高賞となるプラチナ大賞と、総務大臣賞を受賞した。

クシーの6割前後。市によると、11月末までに100件以上の利用があったという。

同賞には、全国の自治体や企業など48団体から応募があり、14団体が東京で開かれた最終審査発表会に出場。やぶくるを運営するNPO法人「養父市マイカー運送ネットワーク」の小柴勝彦理事長と、市国家戦略特区・地方創生課の合徳充課長が発表した。

広瀬栄市長は「住民、事業者、行政が理想的な連携をとれたことで仕組みの構築につながった。これからも地方創生の実現に向け取り組むたい」と話している。

【松田学】

やぶくるは、国家戦略特区の規制緩和を活用。ドライバーは地域住民で、配車などの運行管理は市内のタクシー会社が担当している。料金は一般小型

専門紙

建通新聞 (2018年10月12日号)

## 第6回プラチナ大賞 最終審査へ

### 県の「水道広域化の取り組み」

プラチナ構想ネットワーク(会長・小宮山宏三 菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問)・プラチナ大賞運営委員会(増田寛也委員長)が実施する、第6回プラチナ大賞の最終審査発表会に、香川県の「全国初! 県域を対象とした水道広域化の取組」が進出することが決まりました。

#### 25日に大賞 各賞表彰式

最終審査発表会・表彰式は10月25日、イノボール&カンファレンスセンター(東京都千代田区)で午後1時15分から開催。1次審査を通過した全国自治体と企業の経営トップらによる14の取り組みについてプレゼンテーションを行い、審査結果の発表と大賞・各賞の授与が行われる予定。表彰式が行われる予定。四国からは香川県以外で徳島県・美波町の「美波町におけるICT等を活用した地域課題解決による好循環なまちづくり」も最終審査に臨む。プラチナ構想ネットワークは、全国の自治体として紹介し、さまざまな人・ベンチャー、特別会

自治日報 (2018年11月2日号)

## 大賞に養父市とシエルトー

### 14の自治体・企業がプレゼン

「環境問題や人口減少、高齢化など課題解決に向けた地域の取り組み」をテーマに、各自治体の成果をプレゼンテーション。大賞は、香川県の「全国初! 県域を対象とした水道広域化の取組」が受賞。2次元・3次元を軸とする、0.0人の会員を育成。プラチナ独自の「プラチナ」を軸とする、0.0人の会員を育成。プラチナ独自の「プラチナ」を軸とする、0.0人の会員を育成。

日刊建設工業新聞 (2018年11月7日号)

## プラチナ大賞など受賞

### 大賞を受けた木村社長(左から二人目)



木質構造部材メーカーのシエルトー(山形市)木村一義社長が、第6回プラチナ大賞と経済産業大臣賞を受賞した。10月25日に行われた最終審査発表会で、木村社長が提唱する「木造都市づくりへの取組」が選出・最終審査を受けた。

表彰式は、プラチナ大賞、経済産業大臣賞、「部門賞」で各賞の認定が得られる。また、プラチナ大賞として紹介し、さまざまな人・ベンチャー、特別会

交通新聞 (2018年11月8日号)

## JR秋田支社「ノーザン秋田」

### 大賞部門賞を受賞



環境問題や人口減少、高齢化など課題解決に向けた地域の取り組みをテーマに、各自治体の成果をプレゼンテーション。大賞は、香川県の「全国初! 県域を対象とした水道広域化の取組」が受賞。2次元・3次元を軸とする、0.0人の会員を育成。プラチナ独自の「プラチナ」を軸とする、0.0人の会員を育成。

---

## 第6回プラチナ大賞 報告書

---

2019年1月31日 発行

編著 プラチナ大賞運営委員会事務局  
(プラチナ構想ネットワーク事務局)

---





プラチナ  
構想ネットワーク

編集・発行 プラチナ大賞運営委員会事務局(プラチナ構想ネットワーク事務局)  
〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 TEL. 03-6858-3546 FAX. 03-5204-9563

